

2019 年度 事業報告書

(ホームページのみ掲載分)

| | |
|--------------------------|----|
| 13 組織別の活動状況 | 2 |
| (1) 会議等 | 2 |
| (2) 委員会の活動 | 2 |
| (3) 部会の活動 | 15 |
| (4) 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動 | 28 |
| (5) 関東甲信地域の県支部の活動 | 42 |

2019年度事業報告書ホームページ掲載 一般事業

13 組織別の活動状況

(1) 会議等

定款に規定する会議を次のとおり開催した。

1) 総会

第 61 回定時総会を 6 月 13 日に開催した。議題は付属明細書を参照。

2) 理事会

理事会を 7 回（うち臨時理事会 1 回）開催した。議題及び理事会において審議または報告された規程類の制定・変更の内容は付属明細書を参照。

(2) 委員会の活動

(a) 常設委員会

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、常設委員会相互の連絡及び調整のため、常設委員長会議を 6 回開催した。会議の開催状況及び審議事項等並びに各常設委員会等の開催状況は付属明細書を参照。

1) 倫理委員会

「綱領」、「啓発」及び「情報」の 3 小委員会、並びに「倫理教育検討ワーキンググループ」（6 月末まで）、「倫理綱領検証ワーキンググループ（WG）」（9 月以降）により活動した。主な活動は、次の通りである。

- ① 技術士倫理綱領の改定要否については、最新の社会情勢や他の学協会の動向の調査から課題を抽出・論点を整理して議論を進め、改定を提案することとした。特に、本会のプロフェッション宣言主旨を徹底するため、専門職である技術士は社会に対して責任を持つ存在であり、そのため所属する組織の倫理的文化の醸成に取り組む責務があることを提示することが必要との認識で一致した。広く会員の意見を聴取するための中間取りまとめ案を作成している。倫理事例集については、組織内中堅技術者の自主学習教材としての活用を想定した事例集として、仮想事例を会員向け HP 内に掲載することとし、原稿の最終チェックと HP 構成の検討を進めた。併せて継続的に事例の収集と掲載するための編集手順の標準化について検討している。
- ② 第 11 回技術者倫理シンポジウムは、「企業活動と倫理」をテーマとして、2019 年 5 月 22 日に機械振興会館において 3 名の講演とパネルディスカッションの構成で開催した。聴講者は約 130 名で、ほぼ昨年並みの参加者を得た。月刊「技術士」2019 年 11 月号に開催報告を掲載した。第 12 回技術者倫理シンポジウムは、「安全と技術者倫理」をテーマとして、2020 年 5 月 20 日に開催する予定で、現在準備を進めている。
- ③ 第 46 回技術士全国大会（徳島）関連行事として「技術者倫理情報連絡会」を 10 月 5 日に「あわぎんホール」で開催し 23 名の参加を得た。前年と同様に倫理委員会主催とし、「倫理委員会活動報告」、「四国本部倫理小委員会企画」、「各地域本部の意見交換」の 3 部構成で行った。月刊「技術士」2020 年 3 月号に開催報告を掲載した。
- ④ 倫理教育検討ワーキンググループでは、日本工学教育協会「技術者倫理調査研究委員会」の定めた「学習・教育目標」を基に、技術士が大学・高専等で行う講義の質向上に向けて、基本的な考え方、取り纏め方針、講義構成例の共有システム等の検討を行い、その成果を HP に掲載することとし、引き続きその詳細を詰めている。この成果は、

月刊「技術士」2019年5月号に掲載されている。

- ⑤ 月刊「技術士」に、「技術者倫理シリーズ」7編（2019年4, 5, 8, 9, 10, 12月号、2020年2月号）を掲載した。また、広報委員会との合同検討会議を4回開催し、本シリーズの掲載内容及び今後の執筆者選定方針等について協議検討を行った。
- ⑥ 日本工学会「技術倫理協議会」の参加組織として、2019年度の第15回公開シンポジウム「<これからの技術倫理>～責任ある技術の実践と研究開発～」を企画検討、運営に参画した。本年度は、当会が幹事協会として議長・主幹事を務めた。

2) 総務委員会

諸制度の検討、規則、諸手引きの制定、改訂、廃止の検討並びに会員による活動グループの管理等を行った。主な内容は次の通り。

- ① 特別表彰制度の新設に関する検討を行い、理事会に付議した。
- ② 会員の入退会に関する規則の変更の検討を行い、理事会に付議した。
- ③ 2019年度新名誉会員、フェロー、会長表彰者の審査及び推薦を行った。
- ④ 活動グループの活動報告書を確認し、問題ないものについて理事会に報告した。
- ⑤ 昨年度に引き続き、地域本部関連事項検討小委員会を継続し、地域本部からの提案事項など対し検討を行った。
- ⑥ 常設委員会などから依頼のあった諸規則の制定、変更、廃止について審議し、助言を行った。
- ⑦ 千葉県支部のHPにおける「見解書」の掲載について確認・検討した。

3) 企画委員会

- ① 部会活動の全国展開の活性化支援について必要な予算措置を講じた。
- ② 自然災害により被災した会員の年会費減免措置を制定した。
- ③ 役員等国外出張旅費支給規則の変更を行った。
- ④ 前期に引き続き、予算申請の確認を行い2020年度の予算編成を実施した。
- ⑤ 入会5年目までの会員にアンケートを実施した。
- ⑥ ホームページによる継続的発信を行った。

4) 研修委員会

本委員会は「継続研鑽小委員会」、「技術系人材育成小委員会」、及び「CPD 審査調整会議」、並びに「IPD ワーキンググループ」から構成される。2021年には技術士全国大会（創立70周年記念）が予定されており、2019年11月に企画運営委員会が設立され、本委員会もその中核として支援を開始した。主な活動内容は以下のとおりである。

- ① 「技術士 CPD ガイドライン」により、技術士 CPD 登録証明書の発行申請、技術士認定会員の申請に対し承認した。なお、CPD 登録証明書の発行件数は861件（対前年5件減）であった。
- ② 「技術士 CPD 行事における講演内容の遠隔地同時視聴及び収録・ウェブ掲載に関する規則（案）」を前年度より継続して検討した。発信側となる各部会・常設委員会には、説明を了して、一定の理解が得られている。現在、受信側の地域本部の意見を聞いているところであり、地域本部の事務局長会議等で議論している。問題点として、地域本部等多くの受信希望が出てきたときに、それに対応できる場所、機材、経費の対応が挙げられる。
- ③ 技術士及び技術士 CPD 制度に関する関係学協会との連携を深めるため、日本工学会、

日本技術者教育認定機構（JABEE）、建設系 CPD 協議会、土木学会等の委員に会員を推薦した。

- ④ 研修委員会委員 10 名を CPD 審査員として委嘱し、CPD 定期審査を実施した。今年度は技術士認定会員の約 10%にあたる 40 名を対象に CPD 記録の内容を審査した。
- ⑤ 関連学協会間での CPD 相互承認を推進するため、本会の各組織から申請された技術士プログラムを建設系 CPD 協議会のホームページに掲載した。本年度の掲載件数は 160 件（対前年 7 件増）であった。
- ⑥ 地域本部と連携しながら、JABEE 認定大学や技術系大学等からの講師派遣要請に対して、委員の中から講師を派遣し、「技術士」資格を PR するとともに、学生の挑戦意欲を掻き立てることに努めた。
- ⑦ 技術系人材育成小委員会は若手技術者、特に修習技術者を育成していくための方法について検討を行った。
- ⑧ IPD ワーキンググループ（第二期）を設置し IPD のあり方、獲得すべき項目、及び IPD を定着させるための実施案の検討を行った。
- ⑨ 2021 年に東京で開催予定の技術士全国大会に向けて設置された、「2021 年技術士全国大会（創立 70 周年記念）企画運営委員会」の活動の支援として、実施検討スケジュールを作成し、大会の会場手配と受付を行う旅行代理店を選定した。

5) 広報委員会

月刊「技術士」編集チーム（×2）、特別企画チーム、対外広報チームの 4 チーム編成により、掲載記事の充実、会員と会員、及び本会と会員とのコミュニケーションを図ることを目指して活動した。また、技術士会の外部に向けた戦略的な広報企画を行った。

主な活動は、次の通りである。

- ① 会誌月刊「技術士」の企画・編集・発行（月 1 回）を行った。
- ② 特別号の企画・編集・発行（年 2 回）を行った。
 - ・2019 年 7 月号：トピックス「技術士制度改革について」
 - ・2020 年 1 月号：会長対談「多様な技術分野の総合力を発揮して、イノベーションに貢献しよう」（寺井会長と自民党衆議院議員 与党技術士議員連盟会長 渡海紀三朗氏による対談実施）
- ③ ホームページ改善に関する企画・立案及び Web サイトに関する規格制定（手引きから格上げ）を行った（委員会及びタスクフォースで実施）。
- ④ 対外広報として、技術士資格や試験制度などの紹介記事を掲載、技術士の知名度向上を図った。

6) 社会委員会

「司法小委員会」「広報小委員会」の 2 小委員会の構成により、実行委員会の「技術士活性化委員会」、「防災支援委員会」、「科学技術振興支援委員会」の活動と連携しつつ、以下の活動を行った。また、工事監査支援ワーキンググループも継続して活動した。

- ① 「司法支援小委員会」は、例年通り裁判所から「専門委員」や「鑑定人」等の推薦依頼が来た場合、推薦手順に従って、技術士パーソナル DB 登録者の中から依頼内容に沿った適任者を選定し推薦している。2019 年度の依頼件数は 8 件、継続再任が 1 件である。近年の傾向として、裁判所からの推薦要件は、専門性が高く且つ狭い範囲に絞られる傾向が見られることから、個々の技術士の有する専門技術が活かせるように DB 登録事項の改善や司法支援者の更なる募集を募る必要が生じている。こうした背景

を受け、最高裁事務総局民事局第二課長や、技術士として過去に専門委員等の経験がある方々を招いて、「第3回司法支援講習会」を開催するための企画検討を行った。

- ② 「広報小委員会」は、日本技術士会会員の社会貢献活動を広く一般に周知し、技術士の地位向上に資するため、「第10回社会活動事例発表会」を令和2年5月22日に実施する計画を策定し、具体的な活動事例の募集を行い、建設、環境、電気電子、経営工学、農業、金属、機械、生物の各部門や子供の安全研究グループ、中部本部等から10事例の応募を得、委員会での審議の結果7事例を発表候補事例として選定した。また、社会貢献に関する日本技術士会ホームページについて更新、充実を図るとともに、技術士や本会が行っている社会貢献活動が今まで以上に広く一般に認知されるよう掲載内容の検討を行った。
- ③ 社会委員会による社会貢献活動のひとつとして、文部科学省研究振興局の依頼による、「令和2年度科学技術分野の文部科学大臣賞－創意工夫功労者賞」の書面審査を行った。審査委員は社会委員会（10名）、男女共同参画推進委員会（女性2名）である。審査結果、並びに審査員のコメントについて、2月5日（水）に開催された「科学技術分野の文部科学大臣表彰審査委員会 科学技術賞審査部会」において報告した。
- ④ 「工事監査支援ワーキンググループ」は、本会に依頼された工事監査を実施（23自治体）した。併せて、引き続き東京都監査専門委員、及び茨城県結城市新庁舎建設工事安全監視委員会に技術士を推薦した。また、会員各位に対して、工事監査技術の理解や広報を目的とした講習会の企画検討を行った。

7) 国際委員会

前期に引き続き、「第1小委員会（統轄・広報）」、「第2小委員会（IEA）」、「第3小委員会（海外活動）」による活動を行った。

主な活動は、次のとおりである。

- ① 2019年5月25日、前期委員会の活動状況について、「国際活動報告会」を機械振興会館6階6-66会議室にて開催した。
- ② 海外関係機関との協定等に関する手引、役員等国外出張旅費支給規則の修正について検討した。また、協定・覚書等に基づく活動の定期的な情報収集、更新手順に関する検討を開始した。
- ③ 日本技術士会ホームページの英語ページ及びパンフレット（概要版）の更新を行った。
- ④ 国際委員会のホームページの維持管理を行うと共に、より分かりやすいホームページを目指して再構成を行った。
- ⑤ 広報委員会と協業して月刊技術士への「世界への扉」の執筆者の調整を行った。（シリーズを完了）
- ⑥ 国際委員会のホームページ内に、会員の海外活動を広く紹介するための機関リポジトリを作成し、委員会発足以降（2015年から）の月間PE掲載論文を収集した。
- ⑦ タイのAPEC エンジニア/IPEA 国際エンジニア登録システムを副査としてレビューを行った。
- ⑧ 2019年6月10日～6月14日に香港で開催されたIEA総会に参加し、相互認証等に関する情報を収集したほか、日本技術士会のAPEC エンジニア/IPEA 国際エンジニア登録システムを受審結果として向こう6年間の継続が認められた。
- ⑨ 2019年6月28日～7月1日に西安（中国）でFEIAP（Federation of Engineering Institutions of Asia and the Pacific:アジア太平洋地域技術者協会連合）の総会が、11月21日にメルボルン（オーストラリア）で理事会が開催された。これらの会合

に参加し、アジア太平洋地域の技術者団体の動向について情報収集を行った。

- ⑩ 2019年8月28日、29日の2日間で IES（シンガポール技術者協会：The Institution Engineers, Singapore）を表敬訪問し、シンガポールの技術者資格制度について調査を行った。
- ⑪ 2019年12月6日に第2回日本技術士会-英国 IMechE 合同セミナーを東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター国際会議室にて開催し、「気候変動とエンジニアリングの挑戦」をテーマに講演とパネルディスカッションを行った。
- ⑫ 外為法上の技術提供管理について当会としての対応を検討するため STC ワーキンググループを2020年1月理事会にて設置した。（設置期限2021年6月末）
- ⑬ JICA 日本センター事業に技術士を活用していただくべく、JICA との協業を行った。
- ⑭ 2019年技術士第二次試験改正に伴う、技術士選択科目の英訳、APEC エンジニアとの対応関係、IEA ホームページにて開設された APEC エンジニア・データバンクへの対応、IPEA 国際エンジニアの単独申請受付等の検討を行った。

(b) 実行委員会

1) CPD 支援委員会

技術士 CPD の実践は、技術士法に定める技術士の責務であり、会員の CPD の一層の推進を図るべく、各種行事の企画・運営や教材の開発を行った。主な活動は次のとおりである。

- ① 土曜日の13～17時の「技術士 CPD 中央講座」を3回開催、平日の18～20時の「技術士 CPD ミニ講座」を1回開催した。2020年3月に企画していた「技術士 CPD 中央講座」及び「技術士 CPD ミニ講座」はともに中止・延期とした。
- ② 2019年6月に技術士活動実績の業績・研究の発表の場として「第37回技術士 CPD・技術士業績・研究発表年次大会」を開催した。24件の論文応募のうち優秀な9件について口頭発表を行った。各部会の審査員協力を得て2件の優秀発表を表彰した。
- ③ 2020年新年賀詞交歓会の前行事として「新春記念講演会」を実施した。東京大学の須田義大氏を講師に招いて「モビリティ・イノベーションー自動運転と MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）によるモビリティ革命ー」をテーマに講演頂いた。
- ④ 2019年4月の「技術士第二次試験合格者研修会」では合格者に CPD の重要性と技術士 CPD 制度の概要、CPD の実施・登録方法などを説明した。
- ⑤ 情報工学部会に作成を依頼した技術士 CPD 教材「最近の ICT（情報システム）と課題」が2019年6月に完成し、本会 HP の会員限定ページより PDF 版で無償頒布を開始した。
- ⑥ 2019年11月に「技術士に必要な最近の情報工学/情報処理の主な動向と課題について」をテーマとして技術士フォーラムを開催した。

2) 修習技術者支援委員会

修習技術者に対する IPD（初期専門能力開発）にための各種修習の場を提供することを主目的として①修習技術者研修会②修習ガイダンス③研修セミナーを月例行事として行った（8月は休会）各行事の広報・案内は、メーリングリスト、WEB による告知を中心に行った。

① 修習研修会（7回）

研修は、基本演習課題である、「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」の理解と習得を目指して実施した。また、修習技術者発表研究会を開催し、発表者自身の業務を、他分野の人々にプレゼンすることにより、技術士として必要なプレゼン能力を習得する場とした。さらに、9月に修習技術者発表の年次大会を実施し、優秀な発表を表

彰した。なお、10月は台風19号、3月はコロナウイルス拡大の影響を受け研修会は延期となった。

② 修習ガイダンス 2020 (1回)

技術士制度、第二次試験について、修習(研鑽)すべきことについてのガイダンスを実施した。また、技術士試験への挑戦と技術士として歩む道～パネル討論を行い、実際の体験談などを通して、実際の修習方法などを紹介し理解を深めてもらった。(JABEE、一次試験合格者(72名)技術士(86名)の計158名参加)

③ 研修セミナー (11月)

11月に第32回研修セミナーを実施した。技術を産業界に応用する能力を向上させるために、現状を分析し、戦略を立てるをテーマに、将来、技術士になった時の自分を思い描き、これに向かって戦略を立て、力をつけるためのグループ演習を行った。

上記①～③の活動で合計318名の参加者に対しての修習の場を提供した。

3) 青年技術士交流委員会

下記活動にて本会へ青年層として参画・協力した。

- ① ワークショップなどのアウトプット型の研鑽例会や家族参加型例会、スポーツ交流会を1回/月以上開催した。第一次試験・第二次試験合格者が継続参加でき、円滑に入会に至れる動線強化を行った。
- ② 特別例会として第一次試験・第二次試験合格者交流会を開催し、今後技術士として目指す姿を描くために「子供の将来の夢として「技術士」と言ってもらえるにはどうすればよいか」をテーマに企画・実施した。
- ③ 「グローバルエンジニアを目指して」と題した企画の形で国際交流報告を実施し、グループワークを通して青年層を中心とした参加者に国際交流への意識付けを行った。
- ④ 産学連携活動として土木学会と連携し、家族参加型イベントとして「防災イベント」を開催した。概要は土木学会誌への寄稿でも紹介された。
- ⑤ 技術士全国大会にて青年の集いと題し、統括本部および各地域本部の青年組織との交流、テクノツーリズムを実施し、活動内容の共有を促進した。
- ⑥ 国際交流活動としてCAFEO/YEAFEOへ参加し、ASEANにおける技術動向確認および参加国の技術者との交流を深めた。特に今年度は本委員会の例会で行った「リスクコミュニケーション」「防災イベント」で得られた知見などの発表・論文投稿を行い、存在感の向上を図った。
さらにメルボルンで開催されたWorld Engineers Conventionにおいて、より考察を深めた内容で「リスクコミュニケーション」の発表・論文投稿を行った。
また、日韓技術士国際会議におけるサッカー親善試合の開催支援を行った。
- ⑦ 過年度からの国際委員会依頼事項である日豪交流の入口づくりとして、メルボルンでのミーティングの開催を行った。同様に国際委員会より参加依頼を受けたFEIAPでは、技術士会会員へ国際交流に関するCPDの場を提供するという独自の目的を描きながら、FEIAP加盟諸国の若手リーダーとの交流を深めた。
- ⑧ 第一次試験合格者向けガイダンスにてパネル討論会を実施し、第二次試験受験に向けたモチベーション向上に貢献した。また、祝賀会を実施し、参加者同士の交流を促進した。
- ⑨ 社会貢献活動として小学生向けに理科教室を開催し、科学技術の普及と技術士の知名度向上を図った。
- ⑩ 平成30年度活動年鑑を制作した。また、ホームページやFacebookにて活動紹介、主

催行事の広報および報告を積極的に行った。またラジオ出演による知名度向上も図った。

4) 技術士活性化委員会

「基礎研修小委員会」及び「業務支援小委員会」の2小委員会並びに情報発信メンバにより活動した。

主な活動は、次の通りである。

① 技術士開業研修会を開催した。

入門コース…2019年5月15日に開催し、92名が参加した。

実践コース…2019年6月7日・8日に開催し、36名が参加した。

② 「第5回技術士が実施した支援・活性化の事例発表会」を2019年9月18日に開催し、群馬県支部、神奈川県支部、中部本部、中国本部の推薦を得て、4名の技術士による事例発表を実施した。また、各支部及び地域本部の活性化取組施策について次の3拠点の活性化取組事例を発表した。

・埼玉県支部「埼玉県支部における技術士知名度向上と業務開発活動」

・千葉県支部「技術者教育支援チームの活動」

・九州本部「九州本部・地域産業支援委員会における地域支援活動」

また、特別講演として経済産業省中小企業庁から「中小企業の生産性向上に関する今後の政策の方向性について」のご講演を頂いた。

本事例発表会には、全国113名が参加した。統括本部67名、6地域本部・2県支部46名（北陸2名、中部7名、近畿11名、中国12名、四国5名、九州4名、富山県2名、熊本県3名）とWeb中継を実施し地域展開を実施した。

③ 「技術支援基礎講座－地域の低炭素化基盤整備支援のための研修会－」を2019年11月20日に開催し、全国167名が参加した。統括本部117名、4地域本部2県支部50名（中部3名、近畿18名、中国14名、九州8名、鳥取県3名、山口県4名）とWeb中継を実施し地域展開を実施した。本研修会は、環境省が取組む地方公共団体実行計画とのタイアップ研修会として環境省の協力を得て実施した。

④ 「知的資産経営 WEEK2019 セミナー－知的資産経営における技術士への期待－」を2020年1月15日に開催し、国の取組みについて経済産業省、内閣府及び特許庁の講師をお招きし会員及び一般対象に紹介した。218名の参加があった。統括本部151名、6地域本部3県支部67名（東北1名、中部3名、近畿20名、中国17名、四国7名、九州1名、兵庫12名、島根県4名、鳥取県2名）とWeb中継を実施し地域展開を実施した。本セミナーは、経済産業省が取組む知的資産経営 WEEK2019 とのタイアップセミナーとして経済産業省の後援を得て実施した。

⑤ 「技術支援基礎講座－企業支援における環境視点(省エネルギー・CO2削減)の取組み－」を2020年3月18日に開催を予定したが、新型コロナウイルスの影響により延期とした。

⑥ 外部から依頼された技術士紹介業務について約62件の依頼があった。技術士パーソナルDBに登録されている技術者に業務紹介を実施した。

また今年度は、環境省からの要請を受けて地方公共団体の実行計画に関する環境省が開催するブロック説明会の中で近畿、中国・四国の2か所の説明会に支援を実施した。

5) 防災支援委員会

防災支援委員会は、通常時の活動と大規模自然災害発生後の活動について、以下を実施

した。

- ① 地域組織（地域本部及び支部）の防災活動の支援
 - ・ 関東甲信県支部のうち、長野県、栃木県、千葉県、群馬県について、交流促進のための協議を実施した。
 - ・ 近畿本部・兵庫県支部、中部本部・静岡県支部、北海道本部主催の防災啓発行事に参加し、連携活動を進めた。
 - ・ 中部本部・愛知県支部が参加した内閣府主催「ぼうさいこくたい 2019」のブース展示に協力した。
 - ・ 地域本部、県支部の防災活動を集約するとともに、土業連携や自治体との協定締結状況を調査した。
- ② 第 15 回全国防災連絡会議の開催
 - ・ 技術士全国大会（徳島）の連携行事として、第 15 回全国防災連絡会議を開催し、地域本部報告とともに討議を実施し、徳島宣言を採択した。
- ③ 東京都災害復興まちづくり支援機構及び区部組織活動
 - ・ 統括本部における土業連携として、運営委員及び事務局員を派出し、機構運営に協力した。
 - ・ 防災の日関連行事として首都防災ウィークにブース出展し、ファミリー向け防災クイズを実施した。
 - ・ 墨田区災害復興支援組織の活動に協力した。
- ④ 会員による地域防災力向上に寄与する活動への支援
 - ・ 防災産業展 2019 及び震災対策技術展（横浜）にブース出展するとともに、セミナーを開催した。
 - ・ 出展に合わせ、リーフレットや冊子類の更新及び新規製作を行い、地域本部、支部、会員からの支援要請に対応した。
- ⑤ 大規模自然災害への対応（台風 19 号災害復興支援プラットフォーム）
 - ・ 2019 年 10 月の台風 15 号、19 号被害に対応するため、防災支援委員会規則による台風 19 号災害復興支援プラットフォーム（以下 PF）を立ち上げ地域本部との連携活動を展開した。

6) 科学技術振興支援委員会

本委員会は三つの小委員会から成る。各小委員会の活動は次の通りである。

- ① 第一小委員会
 - ・ 会員が行う理科教室、科学技術系イベント活動への支援
理科支援活動への支援申請書及び申請要領についてホームページに公開している。2019 年度の支援件数は 3 月末で凡そ 30 件である。
 - ・ 理科教育支援活動を行う会員情報の維持管理
全国の会員が実施した理科支援活動についての情報（対象者、実施内容、成果等）の充実を行い、データベース化を図るなど、理科教育支援活動を行う会員情報の維持管理に努めている。
- ② 第二小委員会
 - ・ サイエンスアゴラへの参画
科学技術振興機構（JST）が主催するサイエンスアゴラ 2019 に参加し、「SDGs を技術者として考える」と題して技術士と理工系学生によるパネルディスカッションを開催した。SDGs に関わる技術士 3 名、サイエンス・インカレ等に参加した学生を含む 3 名をパネリストとし、SDGs 関連

の研究や業務内容に繋がるプレゼンテーションとともに参加者を含め活発な意見交換が行われた。学生、技術士パネリスト、参加者がお互いに刺激を受けた大変有意義なパネルディスカッションであった。

・サイエンス・インカレへの参画

全国の大学生・高等専門学校生が自主研究の成果を競い合う場として、文部科学省の主催により開催されているサイエンス・インカレの運営に参画した。本会にて設定した基準に従い応募論文ならびに口頭発表を審査し、優秀な研究に対し“公益社団法人 日本技術士会 会長賞”を選定した。しかし、新型コロナウイルスの影響で、今回の第9回サイエンス・インカレは中止となった。

③ 第三小委員会

・第4回理科実験事例発表大会の開催

理科教室活動等を行っている会員から、模範となる理科実験事例のWeb中継による発表が行われた。4組の発表、デモンストレーションがあり、技術士として必要な知識・技術・プレゼンテーション能力を習得し、理科教室への活用を図っていくという目的につながった。今後も継続して事例発表大会を行っていく。

・ホームページの充実

継続して見直しを進めている。古い情報は削除しつつ、随時新しい情報に更新している。

7) 日韓技術士交流委員会

韓国高陽市での第49回日韓技術士国際会議（高陽）及び宮城県仙台市で開催予定の第50回日韓技術士国際会議の企画・運営を中心に活動を行った。

主なものは以下の内容である。

- ① 第49回日韓技術士国際会議を韓国高陽市のMVLホテル高陽で開催した。総勢199名の参加者を得た。
- ② 本会議の企画・運営に当たっては、4月の韓国高陽市での両国の合同委員会の開催等、韓国技術士会と緊密に連携し、無事開催することができた。
- ③ 上記国際会議の分科会において、これまで英語発表を行っていなかった分科会でも英語での発表を可能とし、その内容を充実させた。
- ④ 2020年10月に宮城県仙台市で開催予定の第50回日韓技術士国際会議の基本計画を立案し、各種検討実施中である。

8) 海外活動支援委員会

8つの小委員会（研修、活動機会促進、情報統括、台湾、ベトナム、中国、ミャンマー、韓国）を編成し、17名の委員全員が何らかの実質的な活動に参画できるよう努めた。活動経験の豊富な小委員長を中心に、それぞれのメンバーが専門力を発揮し技術士海外活動業務の拡大、新規開発、後進への活動の継承を進めた。パーソナルデータベース（PDB）登録者数は、3月13日現在、349名である。

昨年6月には多くのベテラン委員が任期満了により辞められ、7月から新しく企業内技術士が加わった。新しいアイデアなどを求め、委員会及び本会の活性化に努めた。多くは各部会推薦の特徴を活かし、これまでの経験から技術士として委員の役割を果たした。議事録を詳細に書くことにより、情報の共有化に努めた。

- ① 研修小委員会（辻 隆治委員長）；各国別小委員会の協力を得て、9月27日に海外企業業務推進（ベトナム・ミャンマー）研修会を、11月23日に台湾研修会を開催し、会員の海外活動への参画意識を高めた。続いて、12月13日、1月24日に、JICA、JETRO、

技術士の講師を迎え、2回の海外技術協力実務講習会を実施した。4回の研修内容は、技術協力、経済概況、プロジェクトの課題と解決、海外生活・業務の工夫等。国別ではミャンマー、ベトナム、台湾、バングラデシュなどアジアの内容が多かった。JICA、JETROの動向も報告された。また来年度に向け、若手、新規加入の技術士に対する研修会勧誘方法、地域支部での開催の手法を検討している。

- ② 活動機会促進小委員会（杉本 昌明小委員長）；過去2年間、依頼件数に対して成約率が0%と低い。今年度は外部から寄せられた業務依頼案件（60件）をその都度会員向けに発信し業務契約マッチングに努めた。その結果、問合せ応募件数（53件）に対し、成約数（1件（中央アジア、JICA関連））であった。

今後、成約率を高める対策として、PDB登録者に対して「業務依頼に関するアンケート」を実施した（12月実施、1月まとめ）。特定の狭い分野や知的財産にかかる要請が多く、応募しにくいなど今後の活動の課題が明らかになった。また、登録技術士の高齢化も進んでおり、情報の提供は受けるが応募しない事例も見られた。

- ③ 情報統括小委員会（三谷 洋之小委員長）；HPの整理、充実化を推進した。議事録、活動報告等をアップできる体制を整え、会員への情報発信力を高めた。日本技術士会会報（月刊技術士）のうち、海外関係報告原稿の過去10年分の整理を行い、2019年度分（7月号、9月号、2月号）はHPに掲載した。今後順次アップしていく。なお、HPには国別クイズ（東南アジア、ミャンマー、台湾、日本）を新たに掲載し、会員の関心を高め、知識の拡充に努めた。

また、会報（月刊技術士）に海外活動・国際協力シリーズを2年間隔月の予定で連載を始め、委員会全体（2月号）、業務推進小委員会（4月号）の内容を近々掲載する。

さらに、研修小委員会に協力し海外で活動できる人材の把握、ロードマップ作成のためのアンケート内容を検討した。

委員会としての過去からこの先までの情報の共有化を効率的に行うための問題点が明らかになったので、2020年度分として、情報共有のための予算を申請した。公益社団法人として、外部の無料サイトの利用ができない中、内部限りの情報共有形式が作成されるまでの間は必要となるものとする。

- ④ 台湾小委員会（春原 一義小委員長）；2015年12月以降、台湾貿易センターを窓口、台湾において定期的な交流会を継続できるように努めている。今期は2月24日から27日の4日間、台北市、新竹市に赴き、関係機関6か所（工業科学技術院、三兼産業情報社、臺灣機械工業同業公會、台日産業合作推同弁公室、中華民國對外貿易發展協會、電気電子工業同業公會）を訪問した。加えて、2020年12月に期限が来るMOUの更新・延長の検討をするため、署名した經濟部投資局や工業局へのアポイントを取って訪台したが、コロナウイルス新型肺炎の日本での発生拡大のため、2月24日以降台湾の公務員関係者への面会は中止になったため、3月17日に台北駐日経済文化代表処とMOUに関する打ち合わせを行った。

- ⑤ ベトナム小委員会（坂本 文夫小委員長）；ベトナム技術経済発展委員会（フォードンの会）を3回（6月、9月、12月）開催した。また、技術士の新規海外業務開拓、派遣国の拡大を目的として、ベトナム国3都市に、技術士派遣の窓口を構築した。その後、2019年7月4日文書で、企画委員会委員長から10万円での訪越予算の回答を得たので、ベトナム側と情報交換を行い、大学と工業団地の企業との情報交換を計画した。委員長が私費で2019年7月にダナンを訪問し、交流窓口であるダナン技術教育大学関

係者と調整を行った。ベトナムは「人材育成」と「工業団地進出企業への技術指導」が重要であり、日本大使館や JICA も技術士派遣に関心を持っている。今後、JICA プロジェクトの日越大学大学院を通じての交流も期待されている。技術指導の内容検討および人選、経費分担などは担当窓口間でのメール交換で詰め、高度なレベルの技術支援が出来る技術士を確保していく。2018年12月に提出した2名出張の要請が認められず、3月に1名のダナン出張を計画した。しかし、新型コロナウイルスによる肺炎が世界的に拡大したため、訪越は延期し来年度へ持ち越すこととした。2020年度のベトナム調査予算申請と合わせて、2名出張が効果が高いと思料する。

- ⑥ ミャンマー小委員会（小林 政徳小委員長）；ミャンマーは、チャイナプラス1を受けたベトナム調査活動に続く対象国であり、日本政府もベトナムプラス1として力を入れている。2013年に本会から一度現地調査を行っている。2015年以降ミャンマーの政治経済体制の自由化により、JETRO を通じた企業進出、JICA による道路、電力や工業団地等ハード案件の推進が進んでおり、技術士の派遣要請の可能性が高い。本会の講習会・研修会でも6名の講師がミャンマーの重要性を述べている。小委員会が国内での情報収集に努め、9月の JICA 研修会や10月のアウンサンスーチー氏訪日報告会では、工業や農業の技術者の派遣と技術指導に期待している。さらに JETRO は関連団体を通じて現地調査と通訳、自動車の手配までまとめるとのことであり、中国調査予算をミャンマーに振り替えて調査を実施することを検討した。当初12月中旬に2名出張を計画し、その後予算を節約し2月中旬に1名8日間の出張を計画した。しかし、種々事情により取りやめとなった。来年度2名のミャンマー出張予算を提出している。
- ⑦ 中国小委員会（掛田 健二小委員長）；中国とは1990年代からの交流があり、技術士派遣要請が最も多い。3つの訪日調査団（上海、北京、山東省）の日本技術士会表敬受け入れに対応し日本技術士会の活動などの説明を行った。中国側からは今後の交流への期待が示された。毎年中国出張の予算を申請するが、近年ベトナムやミャンマーの技術士派遣要請の可能性を探るための調査出張に予算額を振り替えてきた。2018年度からは特に中国の経験が深い委員による情報収集を行っており、来年度の中国出張予算を提出している。
- ⑧ 韓国小委員会（森山 浩光小委員長（森山委員長兼任））；韓日産業技術協力財団との交流を中心に行っている。技術士派遣のために、12月5日の同財団の研修会に講師を派遣し、日本技術士会の活動などを報告した。

(c) 個別規程による委員会

1) 男女共同参画推進委員会

「女子学生・女性技術者支援に関する活動」と「ダイバーシティ&インクルージョンに関する活動」の目的を明確化した2つの小委員会により、各々の目的に沿った活動を行った。また、ウェブサイトの「見える化」などにより男女共同参画意識について広報の充実を図り、意識の啓発、情報の共有を図った。主な活動は以下の通りである。

- ① 技術者・技術士を目指す女子学生・女性向けに「技術サロン」を首都圏で4回開催、参加者に対して技術士資格や試験制度の説明、技術士に必要な能力の獲得に向けたアドバイス等を行った。文科省人材政策課から3名の見学を得たり（9月）、近畿大工学部（参加者：学生6名）との中継の実施（12月）など、毎回活気に溢れていた。
- ② 独立行政法人科学技術振興機構女子中高生理系進路選択支援プログラム「女子中高生夏の学校2019～科学・技術・人との出会い～」(国立女性教育会館(NWEC)主催)にポスター参画した。女子中高生へは技術者・研究者への進路紹介、アシスタントの大学

生へは技術士資格の広報を行い、参加者に技術士資格を案内できた。

- ③ 20名の技術士が、キャリア形成や技術士としての働き方などを語る「技術士キャリアモデル集—あなたも技術のプロフェッショナルになりませんか—」を発行した。男女共同参画学協会連絡会や大学などに配布、好評を得ている。
- ④ 第46回技術士全国大会において「男女共同参画推進連絡会議」を主催し、「技術サロン10年の歩み」のミニ講演のあと、地域本部や県支部、統括本部それぞれの活動や課題を共有した。
- ⑤ D&I活動の積極的な展開を図るため、「D&Iフォーラム」を開催した（5月）。D&Iを実現する上で、アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）が障害とならないよう、基本的な知識を学び、気づき、実践につなげることを目的とし、講演およびワークショップを行った。
- ⑥ 月刊『技術士』に「男女共同参画シリーズ その3」（全10回）を担当。D&Iの推進をわかり易くするため「イクボス、イクメン」を切り口に隔月で紹介した（継続）。
- ⑦ 委員会委員及び関係者の理解を深める目的で、ワークショップ形式の「D&I学習会」を実施し、D&I経営やD&Iの取組みに関して知見を得た。（11月）
- ⑧ 技術士全国大会や男女共同参画学協会連絡会、夏の学校など、技術士会内外のイベント時に、委員会活動やキャリアモデル、女性技術者育成への提言などをポスターにて紹介した。また、キャリアモデル集をはじめ委員会作成の冊子、チラシなどを配布し技術士資格の広報に努めた。
- ⑨ 技術士会は男女共同参画学協会連絡会の第19期の幹事団体として、2020年11月から2021年10月まで会を運営する。当委員会が運営主体となることからワーキンググループを設置するなどし、準備に努めた。

2) 技術士制度検討委員会

本委員会では「技術士制度改革について（提言）最終報告」（2019年5月8日）を取りまとめたのち、文部科学省人材政策課との協議のもと、科学技術・学術審議会 第10期技術士分科会 第2～4回制度検討特別委員会に対する要望書の検討ならびに作成を実施した。

① 第2回制度検討特別委員会（2019年10月3日）

技術士制度改革に関する法的な論点を整理し、「Ⅰ.更新研修の導入」、「Ⅱ.技術士補制度の見直し」の2章からなる机上資料『（案）技術士法令の改正に向けた要望について（論点整理）』を作成した。

また、技術士のCPD（継続研鑽）活動に関する現状を整理し、「1. CPD活動とは」、「2. 技術士CPD活動の法的整理」、「3. 技術士の資質向上の課題」、「4. CPD登録活動の現状」、「5. 技術士CPD活動の今後の課題」の5章からなる机上資料『（案）技術士のCPD（継続研鑽）活動の現状について』を作成した。

② 第3回制度検討特別委員会（2019年12月3日）

第2回委員会では技術士のCPD（継続研鑽）活動について十分に理解されているとは言えず、引続き丁寧に説明する必要性が認められたこと、また、次回の委員会ではCPD時間数（20もしくは50hr/年）の議論が焦点となることが予想されたため、第2回委員会机上資料について補強検討を行った。

③ 第4回制度検討特別委員会（2020年5月開催予定）

第3回委員会の結論は「長期的な法改正の必要性を引き続き議論するが、現時点において早急な法改正は必要としない。今後議論が進み、技術士法施行規則等について何らかの改正が必要である旨意見が集約されれば当該改正の必要性を特別委員会へ提案

する。」となった。しかしながら、当会が最重要課題とする「CPD 活動の義務化」と「資質向上の責務の履行状況の確認（CPD 取得時間数の登録・証明）」に関しては法改正の余地が十分あり、現時点では制度検討特別委員会での検討方針は再考されるべきと思料する。第4回委員会においては日本技術士会の意見として「法改正も視野に入れ、CPD 活動の義務化等の重要課題については早急に検討を行う必要がある」旨再度提案する。

3) 技術士資格活用委員会

本委員会は、文部科学省・第9期技術士分科会において「技術士制度改革に関する論点整理」（2019年1月）がまとめられた。その中で技術士資格の「活用促進／普及拡大」が当面重点的に取り組むべき項目の一つとして取り上げられ、技術士会が主体となって活動することが明記されました。これを踏まえて本委員会は2019年4月に発足しました。

① 国際的活用推進チーム

- ・第9期制度検討特別委員会の検討結果報告（2018/8/20）、同・国際的通用性検討作業部会の議事録、及び日本技術士会・関連委員会の活動内容等から、各国の実態や交流状況等について、既知の情報を整理した。
- ・JICA ODA（国際協力機構 政府開発援助）、インフラ輸出戦略（各省庁）、TICAD（アフリカ開発会議）等における、資格活用の機会について検討を行った。
- ・その他、企業訪問やパンフレット作成等、他チームとの連携活動を行った。

② 公的活用推進チーム

- ・技術士資格活用要望について可能性評価を実施した結果、「作業環境測定士」「公害防止管理者（水質関係）」「環境計量士」「廃棄物処理施設技術管理者」の4項目についてそれぞれ要望書（案）を作成し所管省庁へ働きかけるよう準備を行った。
- ・新たな技術士資格活用の可能性として「特許法一部改正」「中小企業等経営強化法の一部改正」「情報処理安全確保支援士」「公共事業改正品確法」などに基づく技術士資格活用可能性について検討を行った。

③ 産業界活用推進チーム

- ・企業、企業内技術士会、大学、大学技術士会などに出向きヒアリングを実施した。今期は、企業8社・大学6校から協力を得て3月までに終了した。ヒアリング結果を検討し、事例と要望を中心にまとめ、パンフレットやHPへの掲載など、今後の活動に活用する。
- ・技術士活用のパンフレットやHPを体系的に整理し、作成していく。今期は、まず産業界・公的機関・国際社会・大学等に対する技術士の活用の概要がわかるパンフレットを作成している。第1版の発行は2020年5月の計画である。
- ・部会、委員会、地域本部、県支部からPR冊子作成のための参考資料を収集したので、それらを整理し、今後のパンフレットやPR冊子の作成計画に反映する。

4) 2021年技術士全国大会（創立70周年記念）企画運営委員会

- ① 2019年11月開催の理事会において、2021年度に開催する技術士全国大会（創立70周年記念）を円滑かつ効果的に企画・運営するために、「2021年技術士全国大会（創立70周年記念）企画運営委員会」が設置された。
- ② 設置と同時に、会長、副会長および常設委員会の委員長が標記委員会の委員に委嘱され、研修委員会が作成した2021年技術士全国大会の基本事項及び実施スケジュール（案）に基づきを検討に入った。

- ③ 2020年3月に、研修委員会の委員および管轄実行委員会（CPD支援委員会、修習技術者支援委員会、青年技術士交流委員会）の委員長が委員会の委員として追加委嘱された。

(d) 役員候補者選出選挙管理委員会

1) 本委員会は役員候補者選出選挙及び地域組織における幹事選出選挙を所掌し、その事務を管理する。また、本委員会は委員長、副委員長、幹事で構成する幹事会を設け、緊急性のある課題に対処することとしている。

2) 会議開催状況

2019年度における活動は以下の通り。

- ① 役員候補者選出選挙及び地域組織における幹事選出選挙の開票作業及び開票結果の確認を行い、各立候補者へ選挙結果を通知した。

(3) 部会の活動

本会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、部会相互の連絡協調及び部会活動の活性化に資するため、部会長会議を4回開催した。部会長会議の開催状況及び審議事項等、また、各部会の開催回数、部会における講演会及び見学会は付属明細書を参照。

1) 機械部会

毎月開催している幹事会で部会活動内容の細目を決定している。幹事会の後に例会を開催し、講演会を行っている。その他に今年は見学会を1回、土曜例会を2回開催した。さらに徳島で行われた全国大会において四国本部・中国本部と合同機械部会を開催した。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

毎月第二金曜日に幹事会を開催している。幹事会では各種審議事項の意思決定を行うと共に理事会、部会長会議、委員会の報告などを行っている。

② 講演会

例会ではテーマにより1あるいは2講座の講演を行っている。講演後には講師及び会員の親睦を図るために懇親会を開催している。これらの講演は地域本部との交流を図るためにWeb中継により、九州、中国、中部とは毎月、北海道とは不定期（今年は4回）同時放映しているが、さらに今年も地域本部と双方向の交流がより活発になることを目指し、8月に中国本部、さらに11月には北海道本部の講演が統括本部及びその他の地域本部と共有された。

平日の例会では参加が難しい会員のための土曜例会を今年は6月と10月に開催した。テーマは、6月はファシリテーションの実体験であり、興味深い企画だった。11月は、米国で起きた乗用車用エアバッグ事故の報告を通し、その反省と大手企業が実施している原因究明手法の紹介がされた。現場でしか聞けない生のデータから真の原因に迫っていく論理に迫力を感じる講演だった。

徳島市で行われた全国大会に合わせて四国本部・中国本部と合同機械部会を開催した。地域色を生かしたEV化技術の講演が行われ、併せて四国本部・中国本部の方々と親睦を深めることができた。

新合格者の歓迎会は例年通り一次、二次合格者合同で4月に行った。

また、日本機械学会の年次大会の中で日本技術士会機械部会の企画として市民フォーラムのセッションを9月に秋田大学で開催した。

③ 見学会

2019年度は11月に国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の見学会を実施した。参加者からは多くの意見や感想が寄せられた。

④ その他

新合格者の機械部会会合への参加を促すために、今年も5月から12月の機械部会主催の会合に3回無料で参加できる券（通称パスポート）を発行し、会合への参加者増加を目指している。

相互連携協定を締結している日本機械学会が行った「機械の日」行事である絵画コンクールの優秀賞表彰者に副賞としてネジキューブを贈呈した。さらに同じ「機械の日」行事として子供達に自分で工作し、作った工作物で遊ぶ楽しさを経験して貰いたいと今年も工作教室を松戸市で開催した。今年はホバークラフトを作成し、参加者に喜ばれた。この活動は今年で8年目になり、地域に密着した活動となってきたと考えている。

機械部会に貢献された米寿を迎えられた先達の方々に感謝状（通称機寿賞）と記念品を贈呈している。今年度は熊谷卓氏の永年の貢献に感謝し表彰した。

2) 船舶・海洋／航空・宇宙部会

本部会は、日本技術士会で唯一複数の部門で構成されている部会である。主な活動として、奇数月に東京地区において定例部会を開催している。また偶数月に中部本部の航空部会が中部航空部会例会を名古屋・岐阜地区で開催しており、当部会はこれに連携している。定例部会では、通常20～30名が参加し、他部会からの参加者も多い。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会・委員会は開催せず、計5回の定例部会（5, 7, 9, 11, 1月に開催）にて連絡会を開いて情報共有を実施した。幹事会はメール会議を必要に応じて開催している。なお3月に予定されていた定例部会はコロナウィルス感染予防のため中止となった。

② 講演会

講演会は定例部会に併せて開催し、5回の講演会を開催した。併せて、30分の話題提供（技術講演）の場も設けている。なお、毎回、中国本部/近畿本部にWEB中継を実施している。

③ 見学会

2019年度は、実施しなかった。

④ その他

1月の定例部会で第一次試験合格者祝賀会を実施した。3月の定例部会で第二次試験合格者祝賀会を予定していたが、上記の通り中止とした。（2020年5月に1次試験（再試験）合格者と併せて二次試験合格者祝賀会を開催する）。

3) 電気電子部会

電気電子部会は、原則1月、8月を除く毎月の活動として、技術士の資質向上のため講演会・見学会を開催し、CPD取得の場を提供している。

講演会では、WEB会議システムを活用し地域本部へ配信を行っている。また、CPD実施の相互連携を行っている電気学会のCPD活動を有効活用していただけるように開催情報を提供している。

技術士全国大会では地域本部との連携を図るため合同で見学会を開催している。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

- ・部会報告会を上期（7月）と下期（12月）に2回開催した。
- ・部会幹事会会合を上期下期各報告会前に2回実施した。
- ・部会幹事会の中に部会運営会議を設け原則月1回実施した。
- ・部会幹事、統括本部の常設委員会、実行委員会委員の変更を行った。

② 講演会

- ・講演会を6回開催した。(うち1回は中国本部電気電子/経営工学/情報工学部会主催の講演会をWEB中継)。
- ・統括本部での参加者は、電気学会との連携の効果もあり564名が参加した。
- ・地域本部にWEB会議システムを活用し4回の講演会を配信した。配信先は、東北本部、中部本部、近畿本部、中国本部、四国本部、中国本部鳥取県支部で、参加者総数は163名であり、好評を得ている。
- ・他組織、他部会との連携の一環として昨年に引き続き、情報工学部会と合同講演会を開催した。

③ 見学会

- ・見学会は4回開催し、合計137名が参加した。ほぼ毎回、定員を超える申し込みがあった。
- ・地域本部との連携を図る良い機会と捉え、5月は中部本部電気電子情報工学部会、神奈川県支部と合同開催、技術士全国大会は四国本部電気電子部門と合同で見学会を開催した。
- ・11月は「現役若手世代会員に向けたCPD行事」として、多忙な現役若手世代により多くのCPD時間を提供するプログラムとして見学会を開催した。
- ・3月に予定していた見学会が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

④ その他

- ・4月には、電気電子部門の第一次試験・第二次試験合格者を対象とした歓迎会を開催した。
- ・電気学会と隔月で意見交換会を開催、相互連携の一環として、同報メールを活用し相互にCPD行事の案内をすることで会員へのCPD機会の提供と参加者増を図っている。
- ・12月に第二回全国電気電子部会長及び部門代表者会議を開催し、8地域本部及び6関東甲信県支部より出席があった。

4) 化学部会

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

基本的には、見学会を予定している4月と10月を除き、部会幹事会を毎月第四木曜日の定例講演会の前に開催している。なお、平成30年度の活動を総括する総会(全体会合)は5月23日の幹事会の後、定例講演会の前に幹事以外の会員の出席者を含めて開催した。

幹事会では今後の講演会等のスケジュール、お呼びする外部専門家の選定、理事会・委員会活動報告等を行っている。

幹事会では今後の講演会等のスケジュール、お呼びする外部専門家の選定、理事会・委員会活動報告等を行っている。

② 講演会

幹事会の後に定例講演会を行っている。講演会は原則奇数月は外部専門家と技術士(化学部門)をセットにして、外部専門家からは幅広いジャンル(e.g. セラミックス、新材料、バイオテクノロジー、エネルギー問題)のご講演を頂き、技術士には自身の業績廻り(e.g. 高分子材料、次世代自動車、分析技術、安全化技術)の話題を講演してもらっている。なお、偶数月は現役会員等が参加し易いように夜間に外部専門家を招聘して講演会を実施しているが、それでも現役会員等が参加し難いとのことで、令和2年から、土曜日開催を開始した。また、本年度は令和元年6月29日(土)に金属部会との合同講演会を行い、他部会との交流により、人脈と視野の拡大を推進した。

なお、化学部会は他の団体(e.g. 日本化学会、高分子学会、電気化学会)との交流を図るために講演聴講費は会員扱いとしている。

また、例年通り次代の化学部会を担う現役世代(「若手の会」)の技術士を対象とする定例土曜講演会を年2回(5月、11月)実施した。

③ 見学会

2019度は4月と10月の2回見学会を開催した。4月は小平市のブリジストンタイヤ、10月はJERA川崎火力発電所を訪問した。両見学会には他部会等の方を含め定員前後の参加があった。また、本年度10月の徳島全国大会において、金属部会と合同見学会を企画し、日亜化学の見学を行った。

④ その他

2020年3月22日～24日の日本化学会第100春季年会に例年通りに化学部会のブース展示を行うべく企画準備を進めたが、新型コロナウイルス感染に伴い、日本化学会が中止となり、ブース展示も中止となった。また、3月30日の新化学技術推進協会の異業種交流コーナーへの展示の新規参加依頼を受けた。これに応じて企画準備を進めたが、新型コロナウイルス感染に伴い、これも中止となった。

4)-1 化学物質管理研究会

① 会における年次大会（全体会合）・講演会・幹事会

「化学物質管理」に特化した専門知識を習得するため、偶数月に勉強会、事例研究会、セミナーを近畿支部、中部支部との間でWEB中継して開催し、その講演会が終了した後に同じくWEB中継して幹事会を開催している。目的は、同会を母体として立ち上げた（一社）化学物質管理士協会（Pro-MOCS）が令和元年度から実施している「化学物質管理試験」の受験（民間）資格を得るため、および専門知識を深めるためである。総会（全体会合）は令和元年6月15日PMに開催。技術士化学部門等の受験者が「化学物質管理試験」試験に合格すると、「化学物質管理士（Pro-MOCSが商標登録済）」を名のることができ、本年度は10名合格した。

③ その他

・「化学物質管理士」資格を基に、実務知識を深め、同資格保有者が企業内のCSR部門や工場の製造部門で活躍し、また独立した管理士団体が優れた業務を行って、同資格保有者のスキルのデファクトスタンダード化及び技術士化学部門等による専門領域ができることを目指している。

5) 繊維部会

役員改選期に当たり、新しい部会長を選出するとともに、部会役員を信任した。新体制のもとに全国、特に関東、近畿および東海地域の部会員との連携と情報の共有を進めている。各地域で部会を開催するとともに、日本技術士会の同報メールシステムの利用を開始した。また、双方向の応答や資料添付が可能な繊維部会独自のメーリングリストもスタートさせた。

講演会や見学会などにおいては、関東、近畿、東海地区においてそれぞれの地域本部の繊維部会、さらには一般社団法人日本繊維技術士センター（以下 JTCC）と連携しながら幅広い活動を活発に進めた。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

関東、近畿、東海の各地域でそれぞれ2回、計6回の部会を開催し、日本技術士会理事会および部会長会議の報告を行うとともに、部会員間の情報交換や意見集約を行い、部会長会議での意見・要望に反映した。（新型コロナウイルス感染拡大の影響で、3月に予定していた各地域での部会は中止した。）

② 講演会

東京で3回、大阪で5回、名古屋で5回の講演会を開催し、CPD活動として部会員が延べ156名参加したのに加え、部会員以外も延べ125名参加した。講演会の開催に当たっては、JTCCの関東支部、近畿支部および東海支部、さらには近畿本部繊維部会と連携をしながら進めた。また、大阪における講演会の内、一回は近畿本部化学部会と連携して開催した。

講演アイテムは、日本の繊維産業の歴史と21世紀における課題、インドの繊維事情といった繊維産業論から、セルロースナノファイバーやウェアラブル繊維センサー、炭素繊維などの高性能繊維に関する先端技術、さらにはSDGsと繊維産業、環境配慮型レーヨン繊維など環境対応に至るまでの幅広く、最新の情報に富むものであった。(新型コロナウイルス感染拡大の影響で3月に予定していた2件の講演会を中止した。)

③ 見学会

関東、近畿および東海で各1回の見学会を、JTCCの関東支部、近畿支部ないし東海支部との連携で開催した。

関東では、国立研究開発法人産業技術総合研究所柏センターでスマートセンシングなどの各種試験設備などの見学と説明をお聴きした。参加者は23名(内、部会員以外10名)であった。近畿では、デサントアパレル(株)吉野工場を見学し、スポーツウエアの製造と試験について学んだ。参加者は30名(内、23名は部会員以外)であった。東海では、東レハイブリッドコード(株)を見学し、タイヤコードについて学んだ。参加者は13名(内、10名は部会員以外)であった。

④ その他

技術士第一次および第二次試験合格者歓迎会を、JTCCと連携して各地での講演会などの集まりの機会を利用し、東京(新合格者1名参加)、大阪(新合格者7名参加)および名古屋(新合格者1名参加)で開催した。

企業内技術士の交流を深めるために、企業内技術士が順番に業務内容について話題提供を行い、それをもとに自由討議を行う企業内技術士交流会を、JTCCと連携して大阪で4回、名古屋で1回行い、延べ約200人が参加した。自己研鑽とともに、企業や団体の壁を越えた人脈形成にもつながっている。

技術士への挑戦を薦めるため、東京、大阪および福井で技術士(繊維部門)試験受験奨励の会を開催し、技術士資格の説明、資格取得のメリットと活用事例紹介、合格者の受験体験談などの説明と日本技術士会の紹介を行った。

6) 金属部会

① 部会における記念行事、定例部会、役員会(幹事会)

定例部会は、毎月第3水曜日18時~20時半に開催、7回実施した。前半は講演を行い、食事をはさんで、後半は部会内の情報交換を行った。

金属部会内の組織の見直しを行った。従来の幹事役を、幹事及び相談役に分割して、両者を合わせて役員会とした。組織の見直し及び規約変更の承認等、金属部会の重要事項について議論した。

② 講演会

講演会を8回(定例部会7回+合格者歓迎会1回)実施した。毎回30~40名が参加した。講演内容は、会員が関わっている関連業務を主体に、製造技術から利用技術に至る広い範囲にわたっている。

また、今年度は、部門間の横断的交流を促進するため、化学部会との合同講演会を計画し実施した。

③ 見学会

見学会は、11月の全国大会(徳島)に合わせ、日亜化学工業を見学した。ノーベル賞を受賞した青色ダイオードの技術について現物を見ながら説明を受けた。その後、大鳴門橋「渦の道」と鳴門市ドイツ館を訪問した。

④ その他

第一次、第二次試験合格者歓迎会は、10名の新合格者を迎えて行った。各人がそれぞれの抱負を述べ、先輩技術士との親睦を図った。また、歓迎会の前に定例部会と同様の講演会も行い、新規入会者は金属部会の活動にも触れるようにした。

・「YES-Metals!」

金属部会の若手を中心とした有志が自主的に会合を開いて活動している。2018年には発足から10年で100回という記念すべき時を迎えた。会員数は、他部門からの参加も多く、400名を超えた。

・「吉武進也様を偲ぶ会」

95歳で永眠され吉武進也様の長年のご貢献に感謝するため、2020年2月16日「吉武進也様を偲ぶ会」を開催した。

7) 資源工学部会

本部会は会員数が50名ほどの少人数の部会で、主な活動は原則として2ヶ月に1回の例会（講演会）と年1回の見学会の開催である。また、幹事会は必要に応じて開催している。例会の参加者は、資源工学部会員と他部会員が半々の比率になっており、20名前後のこじんまりしたものである。内容は、会員或いは有識者の講師による講演（1時間程度、その後質疑30分程度）となっている。

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

2019年度の幹事会は令和元年7月22日、12月、令和2年2月4日に開催し、理事会及び部会長会議の報告、常設委員会委員からの報告等による情報交換、意見交換、部会内必要案件の検討等を行った。

② 講演会

講演会は6回（4月、6月、9月、10月、12月、令和2年2月）開催し、合計96名の参加者があった。

演題は再生可能エネルギー資源、資源リサイクル、鉱物資源の開発、鉱業全般に関するもの等であった

③ 見学会

令和元年5月14日行った。家電リサイクルの株ハイパーサイクルシステムズ市川市の本社工場と千葉市の千葉工場を見学した。27名と当部会の見学会としては最多の参加となった。

④ その他

4月の例会時に技術士第二次試験合格者1名、技術士第一次試験合格者1名の祝賀会を実施した。

8) 建設部会

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

2019年度も毎月1回の割合で幹事会を開催し、理事会報告や懸案事項の協議を通じた意見交換を行い、部会の意見を理事会等へ反映した。

幹事の大半は常設委員会や特別委員会、実行委員会の委員として、また、個別規定による委員会の委員として参画し、各委員会と部会との意思の疎通を図っている。

部会には企画委員会、研修委員会、広報委員会を設け、部会への意見照会等の審議、CPD行事の企画運営、広報活動を行った。

② 講演会

講演会の企画運営は、部会研修委員会が行い、講演テーマおよび講師の選定、講師との折衝、当日の司会等について、担当者を決め実施した。

2019年度は8回の講演会を開催し総勢435名が参加した。前年度（平成30年度）は、416名の参加者があり、ほぼ同数の結果であった。また、2019年11月講演会は、千葉県支部との合同企画とし、千葉市で開催した。関東甲信地域の県支部との合同講演会または合同現場見学会については今後も継続する方針である。

③ 見学会

2019年度は2回の見学会（現場研修会）を実施し総勢55名が参加した。

④ その他

建設部会主催の技術士二次試験合格者祝賀会を5月15日に開催し、14名の新規合格者に対して、技術士会、建設部会の活動を紹介した。

関東甲信地域県支部代表者との意見交換会を9月2日に開催し、継続的な意見交換およびCPD活動の連携について確認した。

第46回技術士全国大会（徳島）において、10月5日に、地域本部建設部会との意見交換会を開催した。ここでは、各地域本部の活動状況に加え、建設部会の運営方針、活動状況、技術士制度検討委員会での検討状況について報告し、情報共有した。

9) 上下水道部会

部会活動は、上下水道部門の技術士に有益となるCPDを提供する講演会や見学会を中心に活動を行った。これまでと同様に、講演会への参加を容易にするために、会員対象である場合は平日の夜間、第一次・第二次技術士試験合格者対象である場合は、土曜日開催とした。

講演会は毎回、講演収録と各地域（主として中部本部、中国本部、四国本部）へWEB会議システムを用いた中継を行っている。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

年次大会は実施していないので、同報メール及びCPD行事案内で会員に対して幹事会への参加呼びかけを行った。今年度の実績は2名のみの参加と余り効果がなかったが、参加者が幹事となっていたことから、今後も継続していく予定である。

委員会活動における委員は幹事の中から選出し、活動内容を幹事会で報告し、各委員会から要請に対して、部会として協力を行った。

隔月開催している幹事会では、講演会、見学会等の企画や結果分析、重要事項の審議及び理事会、部会長会議、各委員会報告を行った。コロナウイルス感染防止の影響を受けて3月が中止となったため、年間5回を開催した。

② 講演会

講演会は6回開催し（中国本部からのWEB中継を含む）、延べ228名が参加し、同時に行ったWEB中継には178名が参加した。講演会のテーマは上水道関係と下水道関係が片寄らないように、交互に開催した。徳島市で開催された全国大会では、四国本部に上下水道部門の会員が少ないことから、上下水道部会、衛生工学部会、環境部会の三部会合同で講演会を開催し、31名が参加した。

会員増強を目的として、上下水道部門の一次・二次試験合格者は、合格後一年間は講演会及び懇親会の会費を無料とした。

また、初めての試みとして、地域本部との連携を図るために中国本部の講演会に部会長が参加した。

③ 見学会

見学会は中川水循環センター見学会（埼玉県支部共催）と川崎火力発電所見学会の2回開催し、延べ57名が参加した。埼玉県支部との共催は昨年につき2回目で、今後も県支部との連携を図っていく。

10) 衛生工学部会

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

2019年度の幹事会は2回実施し、部会の運営方針、年次計画、見学会、講演会の内容に関する協議などを行った。その他、講演会並びに見学会時に部会を実施し、各委員会からの報告を行った。

② 講演会

講演会は、5回実施した。「建築設備設計者としての44年間とこれからの建築設備」、「レジリエントな建築・都市」、「コンサートホールの音について」、「廃プラスチック類における廃棄物処理法上の課題について考える」、「バイオマス利用の最新事情～経済・環境・社会的な持続可能性をどう確保するか～」について専門分野最新技術、周辺技術に関する理解を深めた。それ以外に全国大会において上下水道・環境部会と共催で2つの講演を行った。

③ 見学会

多くの会員に興味を持ってもらえるように見学会を5回計画し（うち1回は新型コロナウイルスの影響で中止）、123名が参加した。部会の専門分野に関連して「三河島水再生センター」、「NEC ネットエスアイ 飯田橋本社」、「ハイパーサイクルシステムズ 本社工場」、「横浜市環境科学研究所」の見学会を行った。

④ その他

部会会員同士の情報交換・交流を図るために、ゴルフ大会（5月）及び東京湾定点観測（屋形船、8月）を開催し他部門の方にも参加していただいた。

11) 農業部会

講演会等の開催を通じ、会員相互のコミュニケーションを促進することにより、会員の業務機会の拡大及び質の向上を目指している。部会活動に伴う幹事の負担軽減のため部会員の幹事への積極的な登用を進めている。また、関東以外の会員との連携を強化するため、地域部会への講演会の発信を積極的に進めているほか、本部以外の部会員にも幹事への就任をお願いしている。

① 部会における年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

2019年度は、定例の幹事会を5回開催した。また、平成30年度に引き続き、幹事会及び例会の時間の短縮に努めることにより、講演会の時間を3時間以上確保している。令和元年度において幹事に新任7名を加え（退任1名）、部会活動の充実を図った。令和元年度末で幹事は理事、部会長、副部会長を含め47名である。

② 講演会

講演会は5回開催し、各回約40名の参加を得た。4月の講演会については合格者祝賀会を兼ねて実施し、一次及び二次試験合格者合わせて9名の合格者の参加を得た。生物工学部会との連携は2年目を迎え、令和元年6月の農業部会講演会では生物工学部会会員による講演を行った。また令和2年2月に開催された生物工学部会特別例会（講演会）では農業部会紹介の講師による講演が行われた。引き続きHPへの講演会コンテンツのアップ、講演会のWEB中継地域の拡大、講演録画のHP掲載を進めた。

③ 見学会

例年どおり10月に実施し、山梨県下アグリビジョン株式会社、高根クラインガルテン及び山梨県産業技術センターワイン技術部を訪問した。参加者は29名（うち一般参加者3名）であった。

④ その他

他部会との連携を一層進めるため、令和元年度においても生物工学部会と11月に会議を開催、令和2年度に農業部会・生物工学部会合同の講演会を開催することとなった。(12月5日開催予定) 農業部門の専門科目として、畜産分野、植物保護分野の受験者の増加を図るため、平成30年度に引き続き、学協会等との連携(例えば学会におけるランチョンセミナーの開催)によるPRに務めた。また、部会員が大学等の非常勤講師等として講義、講演を行う際に技術士制度、JABEE制度の説明、解説を行った。

12) 森林部会

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

年次大会(部会総会)は、4月15日に開催した。令和元(平成31)年度の部会幹事会議は年5回実施し、「日本技術士会(統括本部)の動向」や「森林部門技術士の活用促進」等について報告し、必要な協議を行った。

また、部会の年次大会の懇親会と同時に、技術士試験の森林部門での第一次試験合格者と第二次試験合格者と合同で歓迎会を開催し、合格者8名の参加があった。

② 講演会

講演会は5回実施し、総勢260名が参加した。林業、森林土木、森林環境、林産の各専門分野における外部講師等を依頼し、実施した。

③ 見学会

本年度は実施しなかった。

④ その他

・契約方式の変化(総合評価方式の導入等)に対応した技術士の活用、継続研修(CPD)の積極的評価について、発注官庁である林野庁や環境省等に対し陳情を行った。

・会員に対しては、ホームページ及び同報メールにより講演会の案内、森林・林業行政の動向、部会の動き等に関する情報提供を適時に行い、その内容の拡充を図った。

13) 水産部会

部会活動は、CPDの場を提供する講演会を中心に実施した。部会主催の講演会は、参加しやすく予定が立てやすいように固定化した奇数月の第2土曜日として開催した。そして新合格者が参加し易いように土曜日開催で1月に技術士第一次試験合格者祝賀会、5月に技術士第二次試験合格者祝賀会を併催した。なお、新型コロナウイルスの影響のため3月の部会、講演会は中止した。

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

部会年次大会は5月に決算報告を中心に活動の総括を行い、次年度の活動計画についても提案・議論を行った。

幹事会活動は2ヶ月毎の講演会開催時に併せて行い、理事・部会長・各委員から理事会報告、部会長会議報告、各常設・実行委員会報告を行った。それに対応して部会員による協力援助も実施した。

② 講演会

例年通り2ヶ月毎に講演会を開催している。原則、水産に関する専門家を招き講演を行い、講演後に講演者との質疑応答などの自由討論を行った。さらに、講演の録画をCPD講演内容のHP視聴コーナーにも掲載した。

③ 見学会

平成31年度は、開催を見合わせた。

④ その他

・ジャパン・インターナショナル・シーフードショー(東京ビッグサイト)において無料相

談ブースを開設し、3日間で延べ19人の技術士が窓口を担当した。水産技術士の活動紹介のパネルを掲示するとともに、対応内容は養殖・加工などの水産技術に関する指導や技術士試験の紹介等を行った。

・日本水産学会水産教育推進委員会、(国研)水産研究・教育機構、東日本大震災対策本部会議、(公財)農学会に委員を派遣するとともに意見交換を実施した。

14) 経営工学部会

2019年度は、CPD機会提供の充実、部会活動にかかわる情報共有の整備、経営工学三団体連携活動、東日本大震災被災地復興支援活動に注力して活動した。

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

例会8回、幹事会も例会日中心に7回開催した。例会では理事会・部会長会議・委員会の報告や部会行事案内を行い、情報共有を図った。また、事業・収支の報告・計画を議案として年次総会を6月に開催した。例会を通じて、他部会との交流にも努めた。例会毎の企画シートを作成し、事後の評価と併せて次期の計画と継承に活用している。尚、3月に予定していた例会、幹事会は新型コロナウィルス感染拡大防止対応のため開催を中止した。

② 講演会

今年度は5回開催し計279名の参加があった。CPDの場の提供を目的に「経営環境」、「実務研究」、「被災地復興支援」、「業績発表」、「経営工学三団体連携」などテーマを設けて開催した。特に8月の「成功への道のり」～失敗について考える～についての講演会では他部会も含めて92名の参加者があった。

③ 見学会

7月に半日、11月に1日の見学会を開催し、計50名の参加があった。7月は話題となっているテレワーク環境を実践している事務所の執務環境を見学、働き方改革、間接業務の効率化の事例を体感した。11月はこれまでの日本の高度な宇宙科学技術と最新の研究状況を实地に見学し見識を高め、飲料業界の製造ラインの見学を通して最新の醸造・自動化技術とマーケティングプレゼン技術について学んだ。

④ その他

・日本経営工学会、日本IE協会との三団体連携活動として、従来からの会誌への投稿、「技術士を目指そう説明会」(東京:12月)の共催を実施した。

・被災地復興支援活動として、復興の現状への理解を深めるべく、大船渡市長をお迎えして「復興の先について・持続するまちづくり」の講演会を開催した。毎年担当してきた大船渡市主催の「大船渡なりわい未来塾」については、引き続き第7期の準備をしたが、残念ながら開催人員まで応募者が集まらず中止となった。

15) 情報工学部会

情報工学部会の活動の主目的は、部会員の継続研鑽とヒューマン・ネットワーク構築の支援である。部会運営は、原則として月1回の月例会(金曜日18:30~21:00)と月1回の幹事会(月曜日18:30~20:30)を基本とし、イベントとして、年1回の総会、技術士全国大会併設の特別部会、情報処理学会と連携したCPDコラボレーション(講義とワークショップ)等を実施している。2019年度は、計10回の部会を開催した。

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

5月17日に総会を開催し、事業報告、会計報告及び講演会を行った。10月5日には、技術士全国大会(徳島)に併設した特別部会(講演会及び意見交換会)を開催した。幹事会は月1回、計12回開催した。また委員会活動は、常設委員会に7名、実行委員会に12名、個別規定委員

会(選挙管理委員会を含む)に9名、計28名(延人数)の部会員が委員として各委員会活動に参加した。

② 講演会

2019年度は、8回の講演会を開催した。この内、5月は総会を兼ねて実施し、7・12・3月は土曜日の午後を利用し情報処理学会との(覚書に基づく)CPD コラボレーションとして講義とワークショップを実施した。講演会の後には情報交換会を実施し、部会員相互の交流を図った。4月19日と2月7日は、それぞれ2次/1次合格者祝賀会を兼ねて実施し、多数の新合格者が参加した。9月12日には電気電子部会との合同部会を開催し、部会間の連携・交流を図った。この合同部会は次年度以降も継続することで合意した。Web中継は、地域本部からの希望に基づき、4・5・8・9・2月の5回実施し、地域本部所属部会員の参加の便宜を図った。

③ 見学会

2019年度は2回の見学会を開催した。6月28日に、「国立大学法人東京工業大学」、1月18日に「(株)アマダ ソリューションセンター」を見学した。

④ その他

・6月20日に本会会員向けの技術士CPD教材「最近のICT(情報システム)と課題」を公開した。また、これを基に11月28日にはCPD支援委員会主催の技術士フォーラムに協力し、著者による講演会およびシンポジウムを実施した。

・新合格者・JABEE修了者に対して1年間有効の部会参加費1,000円割引を実施し、部会参加の便宜を図った。

・情報処理学会と連携し(覚書を締結)、高度IT人材育成等について取組みを進めている。昨年度合意された連携内容(認定情報技術者(CITP: Certified IT Professional)制度における技術士(情報工学)資格の活用等)に基づき、今年度から「技術士(情報工学)を対象とした認定情報技術者(CITP)資格の審査及び申請料の一部免除」が実施された。

16) 応用理学部会

応用理学部会は毎月定例会(講演会及び見学会)を開催し、本会員及び一般の専門技術者に継続研鑽の場を提供している。近年、多分野の専門技術者が集合している部会の特徴を活かし、地質・地球物理、物理・化学、測地等に関する講演のほか、ビッグデータ・技術者倫理・SI単位・色づくりなどの幅広い専門講師を招いて講演会を開催している。その結果、2012年以降参加者が右肩上がりに伸びている。

① 部会における年度大会・委員会活動・幹事会

年度大会は5月に開催し、1年間の活動計画を決議した。定例活動は、毎月第3火曜日(6月及び12月は土曜日午後)とし、3月(新型コロナウイルス対応により中止)を除き毎月幹事会、定例会および交流会を実施した。幹事会では、講演会企画および運営の他、理事会、部会長会、および本部各委員会から依頼された討議事項などを話し合った。定例会は講演会(見学会含む)を11回開催した。本部委員会活動には、常設委員に7名、実行委員に7名が参加した。

② 講演会

当部会の専門領域に限らず周辺技術および前述の幅広い講演を実施した。また、6月は「現役若手世代技術士CPD行事」を開催、10月の徳島での全国大会では四国本部と共催で3本の講演を開催し、地域技術士との懇親を深めた。12月には資源工学部会と共同開催で講演会を行った。

③ 見学会

11月に防災科学技術研究所(つくば)を訪問し、受講及び見学(大型耐震実験施設、大型

降雨実験施設、地震ザブトン体験など)を行った。

④ その他

P e - C P D 収録によるWEB登録6件、WEB会議システムを利用した講演1件を実施し、地域会員への情報発信を行った。

17) 生物工学部会

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

幹事会を毎月(合計11回、10月度は中止)開催し、講演会、研修旅行、新合格者顔合わせ会の企画など、部会運営に関わる協議をおこなった。10月の例会を年次大会と位置づけ、活用事例に学ぶAI(人工知能)利活用の成否をテーマとした講演会を企画したものの、台風19号の影響で中止となったため、講演者ならびに関係の皆様のご協力のもと、2月に特別例会として、全く同じプログラムにて開催した。別途9月には、日本生物工学会第71回大会に合わせて技術士全国交流会を岡山で開催した。また、北海道地区在住の会員による北海道会を札幌で3回、近畿地区では交流会を大阪で1回、開催した。

② 講演会

主催例会・講演会を6回開催した。例年6月におこなっている業績発表会(第23回)の演題数は、特別講演1、口頭発表11(一般講演8、ショートトーク3)、誌上発表3の、合計15であった。

③ 見学会

見学会(夏季研修旅行)を1回開催した。例年7月に地区会員との交流を兼ねた恒例行事として実施している。本年度は岡山県にある株式会社林原藤崎研究所、岡山第一工場、岡山第二工場、岡山機能糖質工場(岡山市)を見学した。

④ その他

- ・第一次試験新合格者顔合わせ会を大阪・札幌の2会場で企画し、大阪にて開催した(2月、札幌は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止)。
- ・第二次試験新合格者顔合わせ会を東京で開催した(4月)。
- ・外部への広報活動として、日本生物工学会(9月)の大会会場において、本会および当部会の活動を紹介するポスター掲示やリーフレット配布をおこなった。
- ・バイオインダストリー協会との連携行事として、後援行事を1回(5月)おこなった。
- ・製品評価技術基盤機構(NITE)との連携・協力として、技術士ポータル(7月)ならびに連携・協力に関する協議会(1月)をそれぞれ1回開催した。
- ・医薬品許認可ワーキンググループの活動として、検討会を3回開催した。さらにその一環として、はじめてサイエンスカフェを開催した(5月)。

18) 環境部会

2019年度の環境部会の活動は、例年どおり以下の四区分で行事を企画した。

- ・基幹行事：年会、技術交流会、忘年会、歓迎会等、開催月を決めて実施する年間必須行事
- ・定例行事：上記以外に幹事の企画提案に基づいて実施する講演会、見学会等の月次定例会
- ・共催行事：技術士会の他の部会・地域本部、或は学協会の主催する講演会等を共催
- ・運営会議：四半期ごとに開催する行事内容の企画を中心とした幹事会

① 部会における年次大会(全体会合)・委員会活動・幹事会

5月に年会を開催し、年間の活動計画について協議した。その決定に基づいて具体的な活動内容を企画するため、部会幹事による4回の運営会議を開催し、行事予定並びに部会運営に関する懸案事項について検討を行った。また、常設・実行あわせて13の委員会に幹事が委員と

して参画し、運営会議において状況報告を行うことで情報を共有した。

② 講演会

月次定例行事の一環として、計6回の講演会（毎回30～40名程度が出席）を開催した。環境問題に関する国内外の動向について国（環境省・経済産業省）、研究所、企業等から講師を招くなど多彩な内容で実施した。 ※令和2年2月度および3月度の講演会は、コロナウイルス感染症対策のため中止。

③ 見学会

2019年は、国・東京都における環境関連の先進的な取組事例として、豊洲周辺のオリンピック施設の海からの見学会を実施し、東京都オリンピック・パラリンピック事務局 大会施設部 観客・スタッフ輸送担当の方に解説いただいた。

④ その他

8月及び12月には、基幹行事として技術情報交流会（参加者：28名）と忘年会（参加者：20名）をそれぞれ開催した。技術情報交流会では、桑原 純子 氏（OPMAC 株式会社）、春田 章博 氏（春田環境計画事務所）に、日頃の活動から「バングラデシュにおける建設事業の環境管理モニタリング」、「絶滅危惧種の生態工学」に関する話題を提供していただいた。また、新規合格者向けの活動として、2月に修習技術者支援委員会主催の一次合格者ガイダンスでポスター展示・部会紹介を行った。4月には技術士試験一次合格者・二次合格者の合同祝賀会を開催する。

19) 原子力・放射線部会

2019年度の原子力・放射線部会では、創立10周年に取りまとめた10年計画に沿って、「3.11事故の反省・教訓を風化させない働きかけ、安全文化醸成に資する活動」、「技術士認知度向上及び技術士数増に向けた活動」、「部会員の技術士活動の支援」、「広報活動」を2019年度も展開した。

① 年次大会（全体会合）・委員会活動・幹事会

全体会議を6月に1回開催し、部会内体制の見直し、戦略的情報発信等について活動方針を確認するとともに、組織内における技術士の認知度向上について意見交換を行った。幹事会を7回開催し、方針に沿った具体的活動の進め方等について議論した。また、各委員会に参加し各活動を推進するとともに、活動状況について幹事会で情報共有を行った。

② 講演会

原子力・放射線部門の技術士として学ぶべき項目を考慮し、原子力の社会的信頼、原子力施設の自然災害対策、原子力損害の賠償に関する法制度、高レベル放射性廃棄物の地層処分、中性子等を利用した物質科学に係るテーマを選定して、特別講演会1回、例会講演会4回開催した。

③ 見学会及び意見交換会

・六ヶ所核燃料施設（2019年10月）

放射性廃棄物処分をはじめ、核燃料サイクルに関する多くの課題があるが、再処理施設の規制基準適合準備等の様々な取組みが行われている。これらの取組みの様子を可能な限り現場に接近して肌で感じ、理解を深めた。併せて、参加者の交流会（地域連携や更新制度への対応等に関する意見交換会の後）を実施した。

・「リプルンふくしま」及び特定廃棄物埋立処分施設（2020年1月）

「リプルンふくしま」では、特定廃棄物の埋立処分事業の安全を確保する取り組み、処分の進捗状況やモニタリング結果などの最新の情報に触れた。また、特定廃棄物埋立処分施設では、実際に施設や、埋立の状況を見学し、その安全性について、理解した。併せて、各技術士会の

報告会を実施した。

④ その他

技術士制度の理工系学生への認知度向上と受験奨励のために大学のオリエンテーションの機会を利用させていただき、茨城大学、九州大学、京都大学、近畿大学、東京工業大学、長岡技術科学大学、福井大学、福井工業大学で説明会を企画した（2019年4～5月）。

福島事故、放射線に関する正しい知識の普及のため、原子力学会が進めている学校教科書のレビュー活動に協力した。

(4) 地域本部及び地域本部管轄下の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、地域本部相互の連絡協調及び地域本部活動の活性化に資するため、地域本部長会議を3回開催した。地域本部長会議の開催状況及び審議事項等、各地域本部等での総会等の会合の回数、地域本部等における主な講演会等及び見学会は附属明細書を参照。

1) 北海道本部

下記の通り年次大会のほか、各委員会が社会貢献を軸としてそれぞれの活動目的に沿って活動を行っている。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・2019年7月10日(水)に第54回年次大会(参加者212名)を開催した。
- ・本部長を含め30名で構成される役員による本部役員会を3回開催した。
- ・地域委員会(技術士試験、総務、事業、広報、社会活動、地方、防災、青年技術士交流、倫理)を計100回開催した。
- ・各委員会等において研修会・見学会の開催等のCPD行事(43回)を中心に活動した。

② 行事

- ・2019年6月28日(金)に第10回技術者倫理フォーラム(参加者71名)を開催した。
- ・2019年11月5日(火)に第31回防災セミナー(参加者104名)を開催した。
- ・2019年11月28日(木)に令和元年社会交流セミナー(参加者89名)を開催した。
- ・統括本部の各委員会・部会主催による講演会等についてWEB中継を行った。
- ・第一次試験合格者祝賀会(修習ガイダンスを含む)および第二次試験合格者祝賀会を開催した。

③ その他

- ・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・連携・協力協定を締結している北海道4工業高等専門学校との連携により、旭川工業高等専門学校にて倫理に関する共同授業を行った。
- ・技術士の社会認知度向上、理科系教育現場の支援事業として、JABEE認定校4校、認定外大学1校、工業高等学校1校にて講義を行った。
- ・北海道本部会報「コンサルタツ北海道」を3回発行した。
- ・防災委員会と地方委員会の連携事業として、「防災まち歩き(11/1:釧路)」、「DIG(災害図上訓練)実践練習(1/31:函館)」を実施した。

2) 東北本部

活動の主要なものは、第22回北東3地域本部技術士交流研修会「テーマ:若手技術者教育と技術の伝承」と、第39回地域産学と技術士の合同セミナー(青森)「テーマ:地方での技術が問われていること～人口減少の中で～青森県内における取組と事例」(月刊「技術士」2020.4月号参照)の2大イベントである。

仙台で開催を予定している「第 50 回日韓技術士国際会議」企画推進にあたり、数回の準備委員会を開催し、令和元年の今年韓国の高陽（コヤン）市で開催された「第 49 回日韓技術士国際会議」に参加するなどして、会議のテーマと、実施方法の具体化の検討を進めてきた。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月5日に70名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め35名で構成される地域本部幹事による役員会を4回開催した。
- ・政策事業、広報、CPD、防災、青年技術士交流、倫理研究、ITS 研究、男女共同参画推進、ふくしま未来委員会の9委員会では、それぞれ年1～11回の委員会を開催した。

② 行事

- ・東北本部をはじめとする6専門部会及び9委員会が、研修会・見学会等のCPD行事を27回開催した。
- ・9月24日(火)に「若手技術者教育と技術の伝承」をテーマとして、「第22回北東3地域本部技術士交流研修会(仙台)」を開催した。
- ・10月25日(金)に「地方での技術が問われていること～人口減少の中で～青森県内における取組と事例」をテーマとして、「第39回地域産学官と技術士との合同セミナー(青森)」を開催した。
- ・技術士第一次試験合格者及びJABEE課程修了者に対する修習ガイダンスを行った。
- ・技術士第二次試験及び第一次試験合格者祝賀会を開催した。

③ その他

- ・技術士第一次試験及び第二次試験の宮城会場における実施を支援した。
- ・東北本部会報「技術士東北-ガイヤパラダイム-」を7月と1月の2回発行した。

2)-1 東北本部 青森県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月11日に青森県支部会員110名のうち、37名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め18名で構成される役員による支部役員会を5回開催した。
- ・第39回地域産学官と技術士との合同セミナー(青森)開催準備のため実行委員会を3回開催した。

② 行事

- ・CPD研修会を4回(主催および共催)し、見学会を1回開催した。
- ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を開催した。

③ その他

- ・青森県支部会報を令和2年3月に500部発行した。

2)-2 東北本部 岩手県支部

岩手県支部では、次の方針により継続的に活動を展開している。

- ・自らの資質を向上させるよう、社会の変化に対応した技術の研鑽に継続して取り組む。
- ・岩手県支部の総合力を向上させるよう、支部活動を通じて会員相互の連携を強化する。
- ・社会・地域により一層の貢献ができるよう、公益的な活動や他機関との協働を進める。
- ・技術士活動の継続的な発展が図れるよう、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会：6月22日(土) 支部会員117名中38名が参加して年次大会を開催した。
- ・役員会：年間6回開催し、事業計画や技術士相互の連携強化等について協議した。

・委員会：総務、企画、広報、技術の各委員会では、活動に合わせた会議等を随時開催した。

② 行事

・支部主催の講演会を5回、各研究会主催の現場研修会を4回、技術展示1回を開催した。

③ その他

・毎年恒例となった岩手県が主催するサイエンスシンポジウムに委員として参加すると共にブース展示を行い、小中学生を対象に科学の楽しさを伝え、ご父兄には技術士の活動もPRした。

・昨年度に引き続き支部長が大槌町「鎮魂の森整備検討委員会」に委員として参加している。

2)-3 東北本部 宮城県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・2019年5月31日に東北本部役員1名を招いて、第8回宮城県支部年次大会を開催した。

・支部長を含め21名で構成される役員による支部役員会を5回開催した。

・総務企画委員会は、宮城県との防災協定（平成28年7月28日に締結）に基づく活動を企画した。

・広報委員会は、支部のホームページの運用及び支部の活動報告を「GAIA」へ掲載した。

・防災委員会、環境委員会、技術委員会、豊年技術士懇談会は、研修会、講習会等のCPD行事を企画実施した。

② 行事

・第8回宮城県支部年次大会時の基調講演の他、研修会、講演会を計6回開催した。

2)-4 東北本部 秋田県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・7月19日に会員56名が出席して年次大会を開催した。

・支部役員会を3回開催した。

・企画広報委員会は支部の活動報告を「GAIA」へ投稿した。

・秋田工業高等専門学校からの技術士制度説明会の講師依頼について、総務委員会が対応

② 行事

・秋田県支部主催のCPD研修会を4回開催した。

・第39回地域産学官と技術士との合同セミナー（青森）へ会員8名参加

・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を開催した。

2)-5 東北本部 山形県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・令和元年7月5日に令和元年度山形県支部年次大会を開催した。

・支部長を含め18名で構成する役員による支部役員会を4回開催した。

・総務委員会は、年次大会の準備、運営を行った。

・広報委員会は、山形県支部ホームページの更新、GAIA原稿、各講座、現場見学会、年次大会等の報告原稿作成を行った。

・技術委員会は、会員の技術力の向上維持並びに県内の技術者の資質向上を目的に、4月19日平成30年度技術士第二次試験合格者3名による「受験体験研修会」の他、年次大会の基調講演、現場見学会、技術教養講座を企画し実施した。

・倫理委員会は、技術者倫理の啓発を促す活動として、「技術者倫理ワークショップ」を1

回開催した。

・社会学習委員会は、建設産業従事者の減少が顕著となっている中で、次世代を担う子供たちの「土木に対する関心」を高めること、「防災意識の高揚」を図ることを目的として、科学技術の原理や面白さを説明し、地域の小中学校を対象とした出前授業を7回実施した。

② 行事

・令和元年度山形県支部年次大会時の基調講演の他、見学会、講演会を計3回開催した。

③ その他

・5月25日～26日と8月31日に山形県建設業協会主催の『1級土木管理技術検定試験受験準備講習会』（山形県支部後援）に講師4名を派遣した。

・7月13日～14日に鶴岡工業高等専門学校創造工学科の『実践的デザイン教育演習』に講師2名を派遣した。

2)-6 東北本部 福島県支部

支部会員の技術力向上と、地域貢献としての若手技術者育成などを目標に活動して来ました。特に、福島県土木部を中心に福島県内の他団体とも連携し、「福島インフラメンテナンス技術者育成協議会」へ積極的に参画し、これからの担う若手技術者育成に貢献してまいりました。この活動を通して、官との緩やかな連携への足掛かりとしていきたいと考えています。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・6月21日に第8回福島県支部年次大会を開催した。

・支部役員会を3回開催した。（4/18, 7/25, 2/26）

・総務委員会2回、広報委員会1回、技術委員会4回、特別委員会2回開催した。

② 行事

・技術委員会がCPD研修会（見学会含む）を3回開催した。（第4回は、台風19号の災害対応のため中止）

③ その他

・技術士試験受験啓発活動として、関係機関・団体等へ受験申込書を配布した。

・支部会報「たくみ20号」を2020年3月に発行。

3) 北陸本部

北陸本部では、「行動する日本技術士会」として「社会に向けて情報発信」、「社会貢献活動」、「日本列島を襲う自然災害に向けた取り組み」などの活動推進を進めた。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・年次大会は、2019年7月5日に福井市で開催した。防災委員会・倫理委員会・青年技術士交流委員会・事業委員会の活動報告のほか技術研鑽のため、同日に特別講演を実施し、翌6日には、「一乗条谷朝倉氏遺跡」の見学会も実施した。

・地域本部の業務推進では、各委員会（総務、教育広報、事業、倫理、防災、試験、地域交流、青年技術士交流委員会）が連携し、会員参画に対応する組織として活動した。

・役員会（幹事会）は、「地域本部の円滑で有効的な活動のため、事業計画・予算執行状況の確認、地域本部内での課題」等を議題として3回開催した。

・試験制度委員会は、2019年度の地域の大学・高専等へ技術士試験制度の広報活動状況と今後の取組を議題に3回開催した。

・教育広報委員会は会報の発行の打ち合わせなどで3回、青年技術士交流委員会7回、倫理委員会6回、事業委員会2回、防災委員会1回を開催した。

② 行事

- ・講演会は、新潟有資格者懇談会での特別講演会、年次大会での特別講演、CPD 講演会、青年技術士交流委員会の企画講演会、新潟県建設関連産業若手パワーアップ小委員会企画の講演会など4回開催した。

- ・見学会は年次大会時、北陸本部主催および他学協会との共催を含め、合計5回実施した。

③ その他

- ・統括本部で企画した講演会・研究会・委員会を12回WEB中継した。

- ・技術士第一次試験及び第二次試験の実施を支援した。

- ・技術士制度・試験制度の広報に積極的に取り組み、地域の大学・行政機関等へ試験制度の説明を7回行った。

- ・燕三条ものづくりメッセ 2019 において、技術士制度の説明及び北陸本部の取り組み事例を展示した。

- ・国土交通省北陸地方整備局との意見交換会を2019年12月に開催した。

- ・北陸本部会報「ほくりくの技術士」を3回発行した。

3)-1 北陸本部 富山県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・2019年度年次大会は7月27日に出席者34名により開催した。富山県支部役員会は、4月7月12月に3回開催した。

② 行事

- ・7月27日第31回講演会を開催(49名参加)、11月22日に北陸本部事業委員会「日本海国土軸研究グループ」とともに講演会を開催した。119名の参加があった。

- ・2020年1月22日に「とやま若手技術士交流会」を開催(38名参加)し、技術士会の活動などを紹介した。また、2月1日に第32回講演会を開催(95名参加)し、富山県や富山大学などから講演してもらいAI、農業分野、建設分野の話題をとりあげた。

③ その他

- ・1月30日に富山大学においてJABEE認定コース在学学生及び担当教員に対して技術士制度に関する説明会を開催した。

- ・2月3日に富山県土木部5名、農林水産部5名と富山県支部役員9名が参加し、意見交換会を実施した。

4) 中部本部

2019年度は、外部への認知度向上はじめ設定した事業展開の基本方針を踏まえ、中部本部傘下四県支部、委員会そして部会の活性化を目的として事業展開を推し進めた。

① 年次大会・役員会・委員会活動

- ・第8回年次大会は7月20日(土)に開催しました。出席者は101名。

- ・本部長を含む37名で構成された中部本部役員会を6回開催(一回は臨時)した。

- ・委員会は、倫理委員会10回、総務委員会5回、企画委員会9回、CPD委員会5回、修習技術者支援委員会3回、青年技術士交流委員会8回、独立技術士交流委員会6回、広報委員会7回、活用促進委員会4回、防災支援委員会5回、試験業務支援委員会4回、PL実践研究小委員会5回、理科支援小委員会4回開催。以上、計75回開催。

② 行事

- ・CPD委員会担当のセミナーは夏季・秋季・冬季の3回開催(春季は中止)。講師・テーマ選定は、各々電気電子情報部会、上下水道部会、青年技術士交流委員会、倫理委員会、機械部会が担当。

- ・修習技術者支援委員会は、中部本部修習技術者研究業績発表会を開催。
 - ・企画委員会は、技術士第一次・第二次試験の合同合格者説明会を開催。
 - ・社会貢献(防災支援)委員会は、「SDGsに関する講演会」を単独に初開催
 - ・建設部会は、「維持管理と防災に関する講演会」を5年連続して開催。
- 以上を含め、委員会、部会による講演会は39回、見学会は3回開催した。

③ その他

- ・統括本部主催のWEB中継講演会に19回参加。
- ・企画委員会は、日本弁理士会東海支部との共同研究会を開催。
- ・倫理委員会は、テクノロジーカフェを11回開催。通算135回開催。また、教育促進小委員会の倫理教育等は、名古屋大学、岐阜大、鈴鹿高専等、12の大学・高専で実施した。
- ・理科支援小委員会は、理科実験授業研究会を2回開催。小・中学校での特別授業を16回実施。

・外部依頼対応

技術士紹介依頼 6件、指導技術士紹介依頼 3件、人材紹介依頼 0件

- ・登録グループとして、‘よろず科学技術相談所’は、業務獲得のため11回の定例会を開催し、11件の技術相談に応じ、4件の受注をみた

4)-1 中部本部 愛知県支部

本年度は、前年度に引き続き中部本部愛知県支部として、組織と技術士の認知度を上げることに全力を尽くした。更に、社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛け、活動を進めた。

年7回の講演会の充実を図り、一般の方が聞きたいと思われる講演会活動を模索した。当支部で検討してきた成果を発揮できるように、役員・会員が一緒になって活動できる支部を目指し、講演会・発表会・見学会等を7回開催した。さらに2020年度の技術士全国大会を視野に入れた取組みにも着手した。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・6月15日に年次大会を開催(参加者数:37名)
- ・支部長を含む23名で構成された支部役員会を9回開催
- ・委員長を含む6名で構成された企画研修委員会を3回開催
- ・委員長を含む6名で構成された社会貢献委員会を2回開催
- ・委員長を含む7名で構成された総務広報委員会を4回開催
- ・委員長を含む15名で構成された防災委員会を3回開催

② 行事

- ・企画研修委員会による講演会を3回、並びに見学会を1回開催
- ・社会貢献委員会による講演会・発表会を2回開催
- ・防災委員会による講演会・勉強会を1回開催

③ その他

- ・食問題研究会:食に関わる問題の研究及び自己研鑽を10回実施
- ・企業活動研究会:環境・品質・安全とISO国際規格など企業活動に関する諸問題の研究を10回実施
- ・わいがやフォーラム:地域・中小企業支援、技術者の技術テーマにつき議論し10回実施
- ・一般市民向けの名古屋環境大学愛知県支部講座「楽しく、わかりやすく、面白く地球環境の将来を語り合う夕べ」を6回実施

4)-2 中部本部 岐阜県支部

前年度に引き続き、組織と技術士の認知度を上げることを目標に活動をしてきた。社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛けて、幅広い分野の講師による講演会の企画・開催を行った。また、中部本部の「明るく、楽しく、役にたつ」のモットーに則り進めてきた。少しずつではあるが、若い会員、女性会員の参加が増えてきている。

① 岐阜県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、5月11日に岐阜大学サテライトキャンパスにおいて開催した。
- ・役員会は4回行った。また、各委員会を同時開催で実施した。
- ・総務委員会は役員会議案対応と財務会計対応を行った。
- ・企画委員会は講演会のCPD行事及び交流会の企画運営を行った。
- ・研修委員会は中部本部関係の研修支援を行った。
- ・広報委員会は岐阜工業会への講演会参加の勧誘とホームページの管理を行った

また、中断していた“岐阜県支部広報誌”を2019年1月から7月まで継続して発行した。（毎週1人1件の記事をメールで配信。計24名が執筆した。）

- ・活用促進委員会は県内の外部依頼対応を行った。
- ・社会貢献委員会は防災に関する意識の向上を図った。

② 行事

・講演会活動を年間5回、見学会を年間1回行った。講演会については6回開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年3月開催予定分を中止した。

③ その他

- ・岐阜県士業連絡協議会（3回）と岐阜県工業会（2回）の行事に参加した。
- ・岐阜県商工労働部が主催する地域経済情報交換会（毎月第2火曜日開催）に参加し、県下の企業、団体等の活動の情報の入手および、技術士会の活動情報を発信した。

4)-3 中部本部 三重県支部

‘外部に開かれた会員の役に立つ技術士会活動’を目指し運営している。支部の講演会の前段で、技術士制度改革等を含む技術士会の最新情報を会員に伝達するようにしています。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月20日に四日市市で年次大会を開催した。
- ・支部長を含め13名で構成される役員とオブザーバー2名による支部役員会を、4回開催した。
- ・企画研修委員会は、講演会、見学会等のCPD行事を開催した。
- ・社会貢献委員会は、みえテクノロジーカフェ、防災講習等のCPD行事を開催した。
- ・広報委員会は、会報「技術士みえ」の発行、ホームページ管理を行った。
- ・総務委員会は会員動向調査、並びに財務会計対応を行った。
- ・活用促進委員会は中部本部三重県支部外部依頼対応要領を作成し外部依頼対応を行った。

② 行事

・企画研修委員会による講演会を3回（10月12日は台風により中止）、並びに見学会（2月28日は新型コロナウイルス対応により中止）を1回開催した。

③ その他

- ・社会貢献委員会によるみえテクノロジーカフェを6回開催した。
- ・会報「技術士みえ」を3回発行した。

4)-4 中部本部 静岡県支部

県支部発足から6年目が経過し、新規会員の拡大に対する説明会、例会等の開催により新規会員も毎年増加しているが、更なる会員の拡大やスキルの向上を目指し、例会を下記のとおり開催した。また支部活動の活性化や役員相互の情報共有等を図るため役員会を定期的に開催した。

① 年次大会（全体会合）・役員会

- ・年次大会は6月8日(土)に開催し、出席者は59名であった。
- ・支部長以下役員による支部役員会を5回開催した。(うち1回は産学官と技術士との合同セミナー直前役員会)

② 行事

- ・講演会(例会)を5回、見学会を1回開催した。

③ その他

- ・静岡県内の東部、西部地域例会を各1回(合計2回)開催した。(なお中部地域例会についてはコロナウイルスにより中止)。
- ・牧之原市との「公共土木施設に係る技術助言に関する包括協定」に基づき本年度は技術助言を2回行った。
- ・静岡県災害対策士業連絡会の理事会、講習会に参加し会員相互の交流の拡充とスキルの向上を図った。
- ・令和元年10月に来襲した台風19号は、静岡県東部の伊豆市、伊豆の国市、函南町などに未曾有の被害を与えた。この災害で被災した市民の方々を対象にした相談会を静岡県災害対策士業連絡会主催で10月30日、31日(伊豆の国市)11月18日(函南町)、11月24日(伊豆の国市)に開催し、13名の支部会員が参加した。
- ・テクノロジカフェを9回、小中学校での理科授業を12回開催した。
- ・会員相互の情報共有と関連団体への周知の拡充を図るため会報を4回発行した。
- ・静岡県支部では、研究会活動の成果として「家族で考える防災Q&A」を発行しているが県内の自主防災会等からの要請に応え配布した。(菊川市他)
- ・諸外国との交流

静岡県と浙江省は1982年4月の友好提携以来、30年以上にわたり経済、文化、環境など幅広い分野における交流を積極的に促進し、相互理解と友情を深めている。静岡県支部でも浙江省の企業への支援を行っているが、2019年11月8日～11月13日の間『2019年グローバル・ビジネスマッチング in 浙江省』に当支部から3名の会員が参加した。

11月21日には浙江省建設業交流団の一行12名が来静し、建築関係の現場視察や日本国における品質管理等について意見交換を行った。当支部からは3名の会員が参加し活発な意見交換会となった。なお今回の浙江省建設業交流団との交流は今後も継続していくこととしている。

5) 近畿本部

地方創生と地域産業発展に寄与できる技術の研鑽の「場」の提供を、活動方針の主目的として以下の活動を実施した。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会は、6/22(土)に開催。同時に本部長表彰、講演会(「2025年大阪・関西万博の概要」)を行った。参加者48名。
- ・本部長を含む26名で構成される近畿本部役員会議は、原則奇数月の第二火曜日に、計6回開催された。
- ・委員会は、総務・企画委員会7回、修習技術者支援委員会4回、研修委員会2回、防災支

援委員会 4 回、科学技術支援委員会 1 回、日中科学技術交流委員会 1 回、合格者祝賀会委員会 2 回、倫理委員会 2 回、協賛団体強化委員会 5 回、試験業務支援委員会 6 回、技術士活性化委員会 10 回、地域産学官と技術士との合同セミナー実行委員会 11 回、2019 年度西日本大会実行委員会 12 回、地域連携強化委員会 6 回開催。以上、合計 73 回開催した。

② 行事

・2019 年 11 月 8 日（金）～11 月 9 日（土）に、第 25 回西日本技術士研究・業績発表年次大会（京都）（大会テーマ「技術士専門分野の融合による新たなイノベーションへ～世界水準・最先端技術力保有の京都で～」）（参加者 152 名）を開催した。

・2020 年 2 月 8 日（土）に、第 39 回地域産学官と技術士との合同セミナー（京都）（テーマ「日本浮上のキーテクノロジー～産学官と技術士が挑む一次産業のスマート化」）（参加者 96 名）を開催した。

・2020 年 1 月 17 日（金）に、防災・減災シンポジウム、第 13 回災害対策セミナー（～突然の大災害に備え、市民・地域コミュニティは何をするか～）（参加者 119 名）を開催した。

③ その他

・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。

・近畿本部の広報誌「きんき」を 6 回発行した。

・WEB 中継の講演会に 22 回参加した。

5)-1 近畿本部 兵庫県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

2019 年度年次大会を、2019 年 7 月 7 日（日）に県支部会員 48 名、協賛団体 2 名、近畿本部長他 4 名を含む 54 名の出席のもと開催した。役員会は県支部長と近畿本部名誉本部長および県支部役員・幹事出席のもと合計 4 回開催した。

県支部委員会は、広報誌編集委員会 2 回、科学技術支援委員会 2 回、総務委員会 2 回等の合計 9 回開催した。NPO 法人兵庫県技術士会との有志幹部会合を 3 回開催した。また、防災支援委員会では毎月 1 日に安否確認訓練を実施した。

② 行事

県支部主催 CPD 講座を 6 回開催した。内 2 回は視察（バスツアー）先での講演会。

③ その他

兵庫県支部の広報誌「支部だより」の第 9 号を 2019 年 5 月 1 日、第 10 号を 9 月 1 日、第 11 号を 2020 年 1 月 1 日に発行した。

2020 年 1 月 17 日に近畿本部主催、兵庫県支部協力で「防災・減災シンポジウム」を開催した。Web 中継によるミニ CPD 講座を 3 回実施した。

6) 中国本部

① 地域本部における年次大会・役員会・委員会活動

・7 月 13 日（土）に会員 907 名のうち 108 名が出席して年次大会を開催した。

・本部長を含め 30 名で構成される本部役員会を 5 回開催した。

・部会活動の活性化による会員拡大を目的に、8 部会では例会とともに、年 1 回の講演会や合同見学会を開催した。

・企画総務、事業、広報、試験、活用促進、防災、修習技術者支援、社会貢献、男女共同参画の 9 委員会では年 1～3 回程度の委員会、青年技術士交流委員会は 1 回/月の委員会（講演会を併催）を開催した。

・本部長、事務局長、事務局次長(企画総務委員長、事業委員長)および事務局員で構成された「事務局会議」を概ね月1回のペースで年11回開催した。

② 行事

- ・2月15日(土)に、技術士第一次試験合格者を集めて、祝賀会を開催した。(参加者 93名、うち合格者・JABEE 修了予定者 27名)
- ・委員会・部会がCPDのために開催した講演会は28回を数えた。また、見学会は5回開催し、延154名の参加を得た。
- ・会員サービスの地域格差是正を目的に、統括本部の委員会・部会・研究会が主催する講演会を積極的にWeb中継し、計47回の内1回は中国本部から配信した。
- ・社会貢献活動の一環として、社会貢献委員会の協力を得て、広島県安芸太田町の小中学生を対象に理科教育を3回、クラレ科学教室を1回、青年技術士交流委員会は尾道市内の特別支援学校で「ものづくり教室」の開催や「国際交流フェスティバル(ペアせろべ2019)」に参加した。

③ その他

- ・技術士第一次・第二次試験の実施を支援した。
- ・中国本部会報を2回(9月、2月)発行した。

6)-1 中国本部 岡山県支部

「行動し発信し地域に展開する公益社団法人日本技術士会中国本部 岡山県支部」として、技術士の資質向上、社会貢献活動の推進、戦略的な情報発信および地域に密着した活動の展開により、会員サービスの充実と技術士の知名度向上を図り、会員拡大を早期に実現する。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・令和元年7月20日岡山県支部の会員35名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め20名で構成されている支部役員会を5回開催した。
- ・事業委員会を2回、企画総務委員会1回、開催した。

② 行事

- ・CPD研修会を研修会7回、見学会1回開催した。
- ・技術士一次試験及び二次試験合格者合同の祝賀会を開催した。

③ その他

- ・津山工業高等専門学校に対して、キャリア教育支援(仕事と資格)の講演を4回開催した。

6)-2 中国本部 山口県支部

2019年度は幹事改選があり、新体制の基で支部の基盤強化および会員拡大を目標として以下の事業に取り組んだ。

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・2019年7月27日、支部会員および非会員40名が出席して、支部年次大会を開催した。
- ・支部長を含め17名で構成される役員による支部役員会を4回開催した。
- ・企画総務委員会・事業委員会および事務局は、山口県支部の行事開催の準備を行うとともに、役員会に諮る議案の検討を行った。
- ・修習技術者支援委員会は、修習技術者への修習セミナー(第一次試験合格者ガイダンス)を開催した。
- ・広報委員会は、広報活動の企画・実施、ホームページによる情報提供を行った。

② 行事

- ・CPD行事3回(技術士第二次試験合格者祝賀会記念講演会、年次大会記念講演会、技術

士第一次試験合格者祝賀会記念講演会)を開催した。

- ・技術士第一次試験合格者および技術士第二次試験合格者祝賀会を開催した。

③ その他

- ・徳山工業高等専門学校と連携協定を締結し、その実践活動として技術士制度の普及および技術者育成を図る目的で3回の行事を実施した。
- ・支部活動の更なる活性化のために中国本部からのCPD事業のWEB中継を8回行った。
- ・山口市徳地地域において、小学生対象に青年部9名が「子ども科学体験教室(ポンポン船を作ろう)」を実施した。
- ・徳山工業高等専門学校および宇部工業高等専門学校に対して「倫理教育支援」を実施した。

6)-3 中国本部 鳥取県支部

下記の通り委員会等の活動を行ったほか、7月~11月にかけて公民館活動として「防災学習」を8会場で実施した。また、9月には県内の女性土木技術者に参加を呼びかけ、女性技術者の会を実施した。県主催の防災フェスタは11月に実施され支部においてもブースを作り技術士のピーアール活動に努めた。鳥取県では、特に「クロスロードゲーム」を活用した防災学習が好評であり、地域からの講演依頼も多い。

① 地域本部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・2020年6月15日に年次大会(参加者61名)を開催した。
- ・支部長を含め15名で構成される役員会議を5回開催した。
- ・地域活動として県主催の防災フェスタへの参加。

② 行事

- ・技術士第二次試験合格者祝賀会(修習ガイダンス含む)及び第二次試験合格者祝賀会を開催した。
- ・9/5 女性技術者の会

③ その他

- ・年間を通し地域防災教育活動を以下の通り行った。
- ・7/3 鳥取県立鳥取西高校防災学習
- ・9/6 米子市立福米東小学校防災学習
- ・9/7 全国要約筆記問題研究会鳥取県支部防災学習
- ・10/17 八頭高齢者大学防災学習
- ・11/3 鳥取市立東中学校区心豊かな子供を育てる会防災学習
- ・11/3 佐治町街づくり協議会防災学習
- ・11/16 防災養成講座防災学習 鳥取県中部
- ・11/24 防災養成講座防災学習 鳥取県西部

7) 四国本部

四国本部ビジョンで掲げる“5つの事業方針”に基づき、四国らしい特色のある活動を目指し、各県技術士会及び中国本部とも緊密に連携を図りながら次の事業を実施した。

① 地域本部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

- ・7月9日に高松市で四国本部の正会員381名のうち、77名が出席して年次大会を開催した。
- ・本部長を含め30名の幹事で構成される役員会を4回開催した。
- ・総務(正副委員長会議)、事業、広報、修習技術者支援、防災、青年技術士交流、試験業務支援の7常設委員会及び倫理、男女共同参画の2小委員会では、それぞれ数回の委員会を開催した。

・各委員会が講演会・見学会の開催等のCPD行事を中心に活動を行うと共に、社会貢献活動にも積極的に取り組んだ。

② 行事

- ・第46回技術士全国大会を徳島市で開催した。
- ・CPDセミナー・公開講座及び修習技術者支援セミナー、防災講演会、青年技術士交流会を各県持ち回りで開催した。
- ・愛媛県宇和島市・八幡浜市で開催した防災見学会・講演会で地元住民を交え意見交換会を実施した。
- ・高知例会に合わせ技術者倫理セミナーを開催した。
- ・平成30年度技術士第二次試験合格者祝賀会を四国4県の会場で、令和元年度技術士第一次試験合格者祝賀会を松山市で開催した。

③ その他

- ・技術士試験（香川会場）の実施を支援した。
- ・四国本部会報を2回発行した。
- ・JABEE認定課程教員・学生に対する「技術士制度説明会」を徳島大学理工学部、愛媛大学農学部、高知工業高等専門学校で実施した。
- ・香川県教育委員会が実施する学校防災アドバイザー派遣事業に協力した。
- ・香川高等専門学校との包括連携・協力に関する協定に基づき「学生のキャリア支援のための出前授業」を実施した。
- ・社会貢献活動の一環として、徳島大学及び香川大学等が主催する児童生徒向けの「科学体験フェスティバル」にブース（模型製作実験「消波ブロックをつくろう！」）出展した。

7)-1 四国本部 高知県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会活動

- ・6月21日に高知会館にて、会員37名が出席して年次大会を開催した。
- ・支部長を含め15名の幹事で構成される役員会を3回開催した

② 行事

- ・四国本部と共催し、CPDセミナー・公開講座2回（うち1回は例会）、修習技術者支援セミナー、防災講演会、青年技術士交流会、技術者倫理セミナーを高知市で開催した。
- ・9月14日に高知会館にて、中国・四国5県から55名が参加して「令和元年度太平洋・瀬戸内海・日本海縦断技術士交流会 in 高知」を開催した。

8) 九州本部

九州本部にはすべての県に支部が設置されており、地域本部の委員会、部会と連携し各地の活動を進めた。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会を7月6日、54名の参加により開催した。
- ・役員と支部長が参加した合同役員会を3回（7月、11月、4月）、県支部長会議を1回（9月）、三役会議を2回（1月、2月）開催した。これに伴う事務局会議、打合せを37回開いた。
- ・広報・地域産業支援・研修・倫理・防災・青年技術士交流、北九州地区支部支援、試験業務支援の8委員会、みどり・建設・環境・ものづくりの4部会で会議等を43回、講演会25回・見学会6回開催した。
- ・WEB中継による講演会等の聴講21回（延べ128名参加）のほか、WEB会議、発表会

中継など行った。長崎県支部、熊本県支部でも中継を4回実施した。

② 行事

・全国大会（徳島）へ倫理、防災、青年、建設の専門部会等へ関係役員が参加し活動概要を報告し意見交換を行った。管内では第39回地域産学官と技術士との合同セミナー（福岡）（98名参加）を開催した。

③ その他

・地域産業支援委員会では、機械部会月例のWEB中継に全て参加し、管内関係機関の技術相談及びセミナー出展（鳥栖）、関係官公庁からの審査依頼、民間企業からの技術相談の問合せに対応した。

・研修委員会では、地域産学官と技術士の合同セミナーについて企画、立案、運営開催し、定例のCPD3回、12月度CPDを開催した。

・倫理委員会では九州版倫理テキスト準備に向けて事例研究を相互発表し編纂準備を進めた。また、倫理をテーマとするCPD（2件）に講師を派遣した。

・防災委員会では「被災者支援制度研究会」に参加し発表するなど連携を進めた。また、会員への防災アンケートを実施した。

・青年技術士交流委員会では、設立15周年の記念行事を門司、下関で「連携」をテーマに開催した。大学・高専へは技術士試験制度講義4回、公開講演会1回を開催した。また小学生対象の夏休み教室、女性対象の技術者サロン（第2回）、技術士試験合格者を対象に研鑽会、祝賀会を福岡で開催した。祝賀会はほか管内5カ所で開催があった。

・広報委員会では、技術士だより・九州を四半期毎に発行した。

・北九州地区支部支援委員会では、原則月1回の講演会（うち1回は施設見学）を開催した。

・試験業務支援委員会では、第一次、第二次試験の福岡会場における実施を支援した。

8)-1 九州本部 大分県支部

下記の通り全体会合、役員会、行事等の活動を行った。

① 地域本部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

・2019年6月22日に大分県労働福祉会館7階アイリスの間にて、会員28名が出席して年次報告会を開催した。同日、技術士試験一次、二次合格合同祝賀会を開催し、新合格者6名が参加した。

・2020年1月25日にトキハ会館にて、会員25名が出席して年次中間報告会を開催した。

・2019年4月4日、5月17日、10月21日、11月29日に大分県支部役員会を開催した。

・6月27日に現地見学会に関する打合せを担当役員が行った。

・5月15日、7月9日、9月2日、年次報告会および九州本部支部長会議に向けて、大分県支部長・事務局長会議を行った。

・5月28日、6月14日、6月27日、8月19日、8月27日、8月30日、9月10日、9月13日、11月15日、11月20日にCPD研修会に関する打合せを担当役員が行った。

② 行事

・6月2日に、会員26名、会員外186名が参加してCPD研修会を開催した。

・9月1日に、会員33名、会員外137名が参加してCPD研修会を開催した。

・12月1日に、会員28名、会員外115名が参加してCPD研修会を開催した。

・10月19日に、会員14名、会員外3名が参加して熊本城復興状況見学会を開催した。

・11月9日に会員5名、会員外10名が参加して玄海原発見学会を開催した。

③ その他

準会員の経営工学部門の技術士補の方から金型製作における工程管理について、相談したい

事項があり技術士を紹介して欲しいという問い合わせがあり、九州本部の技術相談の窓口の技術士によって対応していただけることになった。また、九州本部倫理委員会のタスクチームの活動で、大学や高専における技術者倫理の新規講師候補について2名の技術士の方に打診したところ承諾をいただいた。

8)-2 九州本部 鹿児島県支部

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会を5月30日に鹿児島市勤労者交流センターで、会員30名が出席して開催した。
- ・支部役員会を5月9日、7月17日、11月21日及び令和2年3月6日（書面協議）に開催したほか、3月24日に事務監査を開催した。
- ・業務企画委員会を7月17日、研修委員会を7月25日、防災委員会を7月29日に開催した。

② 行事

- ・5月25日に第1回CPD、8月17日に第2回CPD、11月2日に第3回CPD及び令和2年2月8日に第4回CPDを開催した。

③ その他

- ・JABEE 認定校鹿児島大学に対して「技術士及び技術士試験制度」説明会を九州本部青年技術士交流委員会の協力を得て開催した。
- ・会員の情報共有化を図るため「鹿児島県支部だより」を創刊し、第6号まで発信した。

8)-3 九州本部 宮崎県支部

① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・2019年5月25日にホテルメリージュにて正会員22名が出席して年次大会を開催した。
- ・幹事10名による支部役員会を1回開催した。（5月25日）

② 行事

- ・講習会（CPD）を2回開催した。（11月9日、2月8日）
- ・見学会（CPD）を1回開催した。（11月16日）
- ・技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会を開催した。（5月25日）

③ その他

- ・平成31年度技術士第二次試験願書配布及び技術士制度等説明会を開催した。（4月6日）
- ・宮崎県土木の日実行委員会主催広報活動に参加した。（11月23、24日）

8)-4 九州本部 佐賀県支部

佐賀県支部の運営方針である「会員の倫理の啓発、資質の向上、品位の保持に努め技術士制度の理解と技術士の知名度・地位の向上、技術士の活用促進、会員の増加を図り、地域の発展・活性化に資する」ことを念頭に活動を行った。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・年次大会

日時：2019年5月25日（土）12:30～13:30 場所：メートプラザ佐賀 多目的室

参加人数：35名（内委任状21名）

- ・役員会

第1回：2019年5月24日（役員11名中2名出席）場所：（株）親和コンサルト会議室

第2回：2019年5月25日（役員11名中8名出席）場所：メートプラザ佐賀

第3回：2019年8月23日（役員11名中9名出席）場所：（株）親和コンサルト会議室

第4回：2020年1月31日（役員11名中3名出席）場所：（株）親和コンサルタント会議室

② 行事

- ・2019年度第1回CPD（技術懇話会）；2019年5月25日（土）27名（9名）
- ・2019年度第2回CPD（技術懇話会）；2019年11月30日（土）30名（14名）

③ その他

- ・広報活動 佐賀建設新聞新春特集号投稿（2020年1月1日）
公益社団法人 日本技術士会佐賀県支部支部長：テーマ「技術士とは」

8)-5 九州本部 熊本県支部

熊本県支部活動の目標・方針として下記の4本の柱を立てている。

- ・地域の課題解決を支援する。
- ・技術士を知ってもらう。
- ・技術士を育てる。
- ・技術士として研鑽を積む。
- ・日本技術士会の会員を増やす。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月15日にメルパルク熊本で35名が参加する第6回年次大会を開催した。
- ・技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会（合格者7名参加）を開催した。（6月15日）
- ・支部長を含めて10名で構成される役員による支部役員会を6回開催した。
- ・新エネルギー研究部会を8回実施した。

② 行事

- ・支部会員を主体としたCPDを6月15日、8月17日、10月19日、2月15日に4回開催した。11月22日、熊本地震復興状況の現地研修会を実施した。
- ・熊本大学、崇城大学、熊本高専の学生に対して、技術士制度についての説明会を実施した

③ 熊本地震復興支援活動

- ・インフラの復旧・復興状況の広報活動を実施した。

8)-6 九州本部 長崎県支部

「会員の資質の向上、異分野技術士の交流促進、技術系人材育成等」を主な活動目標として、以下の活動を実施した。

① 県支部における年次大会（全体会合）・役員会

- ・6月8日（土）、支部会員96名のうち38が出席して年次大会を開催した。
- ・11名からなる幹事による幹事会を6回（4, 6, 8, 10, 12, 2月）開催した。

② 行事

- ・研修会3回、見学会2回のCPD行事を開催した。

③ その他

- ・長崎大学 JABEE 認定プログラム第3回講義に若手技術士及び公務員技術士を派遣した。

(5) 関東甲信地域の県支部の活動

本会の重要施策について円滑な実施を図ると共に、関東甲信地域における県支部相互の連絡協調及び県支部活動の活性化に資するため、支部長会議を開催した。各県支部での年次大会等の会合の回数、県支部における主な講演会等及び見学会は付属明細書を参照。

1) 神奈川県支部

「技術者倫理に基づき、資質向上のため継続研鑽に努め、地域社会に対する貢献を通して国民経済の発展に寄与する」ことを基本理念として地域において技術士の「知名度向上」と「会員拡大活動」に取り組んだ。

台風 15 号による技術士第一次試験の中止、新型コロナウイルス感染症の件で 6 件の行事が中止となった。

① 支部における年次大会・役員会・委員会活動

- ・ 7 月 23 日に神奈川県支部年次大会を開催し、交流会に地域の関係諸団体の関係者を招待。
- ・ 23 名の幹事による神奈川県支部役員会 11 回を開催した。
- ・ 4 委員会及び 9 小委員会、それぞれ月 1 回委員会を開催した。

② 行事

- ・ 神奈川県で開催される展示会（テクニカルショウヨコハマ 2020、ビジネスオーデイション及びテクノトランスファー in かわさき 2019）に出展し、出展者セミナーを開催。本会及び技術士の知名度向上と会員拡大に寄与した。
- ・ 二次試験新合格者祝賀会（4/6）を開催した。
- ・ CPD 講演会（10 回）、テクノセミナー（3 回）、見学会（2 回）、情報交流の会（5 回）、オープンテクノフォーラム（1 回）、地域産業活性化研究会（1 回）を開催した。
- ・ 技術士開業及び業務開拓のための研修会（1 回）を開催した。
- ・ 技術士への道ガイダンスを 1 回（学生対応）開催した。
- ・ 理科教室（1 回）、サイエンスカフェ（3 回）を開催した。
- ・ MIX “若手技術士” 交流会 2 回開催した。

③ その他

- ・ 2020 年 1 月 28 日、2020 年新年賀詞交歓会を開催し、地域諸団体の関係者を招待。
- ・ 技術士一次・二次試験神奈川試験会場への対応を行った。

2) 埼玉県支部

当期当支部は令和 2 年に入り新型コロナウイルス感染症の影響があったものの概ね前期以上の活動成果を達成することができた。しかし企業内技術士、若手会員の参加促進に関しては引き続き課題が残った。

CPD 関係では上下水道部会と「東京外かく環状道路工事」見学、建設部会と「土木・建設構造物補修工事関連」講演をそれぞれ共催ができ、大変好評であった。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・ 年次大会：令和元年 7 月 27 日に開催、日本技術士会元理事・前技術士制度検討会委員 徳川和彦氏による「技術士制度改革について」及び東京工業大学 辻本将晴准教授による「技術士とイノベーション」の特別講演も行った。
- ・ 役員会：基本的に偶数月、臨時も含め 7 回開催、議案・報告事項等議論し、役員会のない奇数月は支部長、各委員長による幹部会議を 6 回実施した。
- ・ 委員会：5 委員会で計 45 回委員会を、その他の会議等を 40 回実施した。なお、令和 2 年 3 月の委員会は新型コロナウイルス感染症の関係上一部中止をした。

② 行事 (CPD)

- ・ 講演会を見学会と同時開催も含め 14 回実施。詳細は県支部における講演会資料に記載
- ・ 見学会は 5 回実施。詳細は県支部における見学会に記載
- 講演会、見学会の参加者は延べ 654 名

③ その他

- ・ 5 月 25 日：技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同祝賀会実施

- ・9月10日：技術相談会開催
- ・10月29日：埼玉大学産学官交流テクノフェアに支部として後援、参加
- ・11月13日、14日：BIZ SAITAMA さいたま市産業交流展 2019に参加
- ・1月29日、30日：彩の国ビジネスアリーナ 2020に参加（技術相談も実施）
- ・2月13日：第16回埼玉北部地域交流会に参加出展（埼玉県産業技術センター主催）
- ・2月21日：第6回彩の国産業活性化交流会～技術士はこんな支援ができます～を開催
- ・3月21日：県内企業及び機関・団体に対し技術士資格取得説明会（制度説明会）を実施
- ・広報誌「彩の国技術士」を4月、10月2回発行、また技術士活動紹介として過去の会員講演内容を纏め発行した。
- ・学生及び教員に対する技術士制度説明会を令和元年4月、5月埼玉大学（参加者110名）、東洋大学（川越）（2学科・参加者263名）実施した。
- ・埼玉県、さいたま市、川口市各教育委員会、東京大学 CoRFE（高大連携推進）等との連携による理科教室等7回実施した。特に東京大学 CoRFE（高大連携推進）に関しては支援団体としての要請を受け継続的に支援することとした。しかしながら残念なことに平成29年度から3年間埼玉県で開催され当支部が支援してきた「科学の甲子園」（令和2年3月）は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。

3) 山梨県支部

山梨県支部は日本技術士会が目指す地域組織の意義をかなえるべく、前年に引き続き次の方針に沿って活動を計画、実行した。

- (1) 地域密着型の技術士活動を通じた積極的な社会貢献
 - (2) 社会的ニーズに応える技術士であり続けるためのCPD活動
 - (3) 技術士の認知度向上
 - (4) 新技術開発や技術支援活動の活性化による技術士の事業領域拡大
 - (5) 環境・安全・防災・景観等、社会性の高い技術研究・交流活動
- ① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動
- 令和1年5月18日に年次全体会合を開催し 前年度事業実績・会計報告、令和1年度事業計画等報告した。幹事会は計10回開催し、年度計画と予算、各行事の実行計画と手配等を進めた。
- ② 行事
- ・CPDとしての講演会3回に加え、会員10名による研究発表会（15分ゼミナール）1回を開催した。
 - ・2020年9月4日に米倉山エネルギー関連施設を会員他14名で訪問、見学した。
- ③ その他
- 主要な対外活動
- ・令和1年10月9日 山梨県産業技術支援交流会2019を開催し、県の主な部局、公的支援機関等28名を招待して、来賓講演及び事例研究発表を実施した。
 - ・令和1年11月7日～9日 山梨テクノ ICTメッセ2019（山梨県最大の産業展）出展
 - ・令和2年1月1日 支部報第8号を発行
 - ・令和2年2月14日 工業系高校生実践的技術力向上事業連携推進委員会へ委員を派遣（支部長）

4) 長野県支部

CPD研修会、技術士説明会を中心に活動を行った。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月29日（土）、年次大会を開催した。
- ・支部幹事による支部役員会を5回開催した。

② 行事

- ・CPD研修会を6回（うち2回は見学会含む。）開催した。また、8月に建設部会のCPD研修会を支部としてWEB方式で試聴した。
- ・4月13日（土）、技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格者祝賀会を開催した。

③ その他

- ・支部会報を1月に発行し、会員、関係機関等に配付した。
- ・長野高専学生等に技術士等説明会を6月と10月に開催した。また、企業からの依頼を受け、技術士説明会を11月に開催した。
- ・支部協賛団体を募集し、2019年度は6団体が協賛された。

5) 千葉県支部

本支部は千葉エリアに密着した活動を進め、技術士の知名度向上、経済社会の発展ならびに科学技術の向上に努めることを目標に活動した。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月16日に55名が出席、千葉県庁技術士会、船橋市役所技術士会および千葉工業大学技術士会を来賓として年次大会を開催した。
- ・役員会は月曜若しくは土曜の夕刻に10回開催した。なお、役員会の前に委員長・チームリーダー会議を開催し議事進行の円滑化を図っている。
- ・各委員会・チームはほぼ毎月、活動のための会合を開いており、これらの予定はWebサイトで会員に公開している。

② 行事

- ・技術士第一次試験及び第二次試験合格者合同の合格祝賀会を5月に開催し、支部活動を紹介し、勧誘に努めた。
- ・CPD講演会を10回、工場見学会を2回実施し、会員の資質向上に寄与した。
- ・防災講演会を千葉市の後援を得て9月に実施し、また、マンション自治会向けに防災講演を3回実施した
- ・理科教育支援は6月に千葉市で3ブースを出展、その一つは京葉工業高校生徒と共同で無電源ラジオの工作で児童を指導し、同校から生徒の資質向上になると高く評価されている。長生高校で2回、八千代松陰中学で1回、技術士として理科授業を行った。また、高校等の研究発表会で指導助言等も行っている。
- ・東葛テクノセンター、千葉市産業振興財団で会員が詰めて技術相談を実施している。

③ その他

- ・弁護士会の音頭で千葉県内の士業が集まり「千葉県災害復興支援士業ネットワーク」が設置されたことに伴い参加し県内士業との交流を深めている。
- ・Web会報を1回発行、新規合格者の紹介、会員の技術士業務の紹介、業務に役立つノウハウ等を掲載

6) 茨城県支部

「会員技術士の力を結集し、持続可能社会構築（含む防災）に向けて、地域に密着したきめ細かな対応を通して技術士活動の活性化を図り、地域の科学技術の向上と県民経済の発展に寄与する」ことを基本理念として活動を推進した。また若手会員の活動支援に取り組んだ。

① 支部における年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・7月27日に茨城県支部年次大会を開催した。
- ・茨城県支部役員会を12回開催し、県支部の運営について協議を行った。
- ・その他各委員会の会合を31回開催した。

② 行事

- ・「平成30年度技術士第一次・第二次試験合格者祝賀会・講演会」（4月6日）を開催した。
- ・年次大会（7月27日）及び新年講演会（1月25日）で「講演会・交流会」を開催した。
- ・「いばらきオープンテクノフォーラム2019」を12月14日に開催した。
- ・「技術士CPD講座」を3回、「修習技術者交流会」を2回、「いばらきIoTコ・ラボ勉強会」を3回、また見学会を1回開催した。

③ その他

- ・県内小中学校等で開催された「おもしろ理科先生」講座に合計7回講師を派遣した。
- ・茨城高専（JABEE認定）の要請で「技術士活動紹介」（4月4日）を行った。（専攻科1,2年生、約50名に対し啓蒙活動実施）
- ・茨城県霞ヶ浦環境科学センター「環境月間フェスティバル」（6月1日）に出展し、パネル展示、水の浄化実験、光の屈折実験、消える玉の工作を行った。
- ・茨城県霞ヶ浦環境科学センター「霞ヶ浦ECOフェスティバル2019」（8月24日）に出展し、ポンポン船工作、水処理実験、バブルリング体験等を行った。
- ・「青少年のための科学の祭典ひたちなか大会2019」（11月2日,3日）に出展し、手作りモーターと分光盤の工作実験を行った。
- ・茨城県霞ヶ浦環境科学センター「環境学習フェスタ」（2月15日）に出展し、パネル展示、水の浄化実験、光の屈折実験、消える玉の工作を行い、実験的にプログラミング体験を追加で実施した。

7) 栃木県支部

“会員の顔の見える会”と“地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋”を主眼に支部活動を行った。特に、会員のための講演会、研究会等を充実するとともに、中小企業のために産・官・学の連携に努めた。

① 年次大会（全体会合）・役員会・委員会活動

- ・6月8日年次大会（全体会合）を支部会員188名中27名、協賛団体6名、他関係者10名の出席で開催した。本年は、大変多くの参加者となりました。
- ・年次大会に併せて講演会、報告会を開催し参加者は43名であった。また、講演会等終了後、祝賀会及び新合格者歓迎会を開催した。参加者は新合格者5名を含め50名であった。
- ・支部長を含め15名で構成される役員会を10回開催した。
- ・各委員会では必要に応じて委員会を開催した。特に、国際委員会、環境支援小委員会では例会を開催するなど、積極的な活動を行った。

② 行事

- ・企画・研修委員会では、6月に見学会（環境小委員会、企画・研修委員会共催）、7月、9月、1月（2020年）にCPD研修会、10月に共催研修会、11月に宇都宮大学大学院客員教授渡辺裕氏を講師に迎え秋の科学技術講演会「AI（人工知能）技術の基礎」を行った。12月期講演会は、I部は栃木県支部幹事金澤政和氏、II部は日本技術士会前副会長中川裕康氏を迎え「技術士制度改革について」の講演を行い、終了後交流会を開催した。令和2年2月には「技術士を志す方への情報提供講座」を開催した。
- ・国際委員会では委員会が総合調整の窓口となり、浙江省科技訪日団（アジア青少年サイエ

ンス交流事業：さくらサイエンスプラン) 12名の他、企業経営等 29人を8月26日から8月31日まで県支部が招聘した。県内企業訪問、宇都宮大学見学、セミナー開催、日光地区の見学等を行い技術交流を行った。さらに、第11次訪中団(9月12日から15日迄)、第12次訪中団(10月17日から19日)を浙江省に派遣し、現地見学や科技交流中心との交流を深めた。

・環境支援小委員会では、環境問題への取り組みとして5月19日に「フェスタmyうつのみや2019」へ参加し「わくわくどきどきサイエンス」を開催し、低学年児童向け物造り教室を実施した。理科教育の一貫としてサイエンスカフェを開催(9月8日エンジョイカガク出展(帝京大宇都宮キャンパス:参加者87名)、11月30日ECOテック&ライフとちぎ2019。)し、Mg電池ミニカー製作、コイルモータ製作などを体験させた。また、地域再生等を目的としたいちかい浮島プロジェクトを市貝町から受託し、廃校のプールを活用したキンブナ養殖のための生態系の確保の実証試験を実施し、キンブナの生育環境や地域活性化について議論した。

③ その他

・業務委員会では、宇都宮大学産業コラボレーションフェアに参加するほか、県産業振興センター主催の栃木産業振興ネットワークメンバーとして積極的に支援した。

・栃木県産業技術センターにて、7月26日「食品保存技術」に関する講演会を開催し栃木県支部のPR活動と企業支援活動事業を説明した。

・2019年度5月、10月の補正ものづくり支援事業へ4名の審査員を派遣した。

・県産業振興センター主管の業務受託システムへ3名の専門家を派遣及びサポートユアビジネスの審査員を派遣した。

・県内金融業委託による専門家派遣にて、会員一名が企業の機械管理者として長期顧問契約を締結した。

・広報委員会では、8月に会報第14号、1月に会報第15号を発行したほか、支部ホームページを更新・管理を行った。

8) 群馬県支部

① 支部における年次大会(全体会合)・役員会・委員会活動

・7月19日に群馬県支部全体会合(出席者18名)を開催した。

・群馬県支部役員会を隔月で開催し、重要事項の審議を行った。

第1回役員会 2019年5月24日

第2回役員会 2019年7月19日

第3回役員会 2019年9月20日

第4回役員会 2019年11月15日

第5回役員会 2020年1月24日

第6回役員会 2020年2月19日

・総務委員会、企画研修委員会、広報委員会を必要に応じて役員会開催と同時に実施した。

② 行事

・CPD講演会を2回、見学会を1回開催した。

・講演会は、7月19日(一般を含め32名が参加)、2月19日(一般を含め25名が参加)に開催した。

③ その他

・第5回回技術士が実施した支援・活性化の事例発表会(9月18日)に発表者を派遣した。

・会報第13号を8月に、会報14号を11月に、会報15号を2月に発行した。

以上